令和４年管内事業用自動車事故統計

国 土 交 通 省

九 州 運 輸 局

ま　え　が　き

令和４年に発生した全国の交通事故による死者数は、警察庁発表で２，６１０人となり、昭和２３年以降の統計で最小となりました。平成１６年に過去最悪を記録した交通事故の発生件数及び負傷者数は、平成１７年以降１８年連続で減少となりました。しかし、依然として約３０万件と多くの交通事故が発生しており、事故防止対策の更なる拡充・強化等の対策の策定が求められています。

交通事故の根絶は国民をあげての悲願であり、特に自動車運送事業者にあっては、輸送の安全を確保することは最大の使命であります。人命尊重はもちろん企業防衛の上からも更に積極的に事故防止に取り組まなければなりません。

本書は、令和４年中に発生した事業用自動車の重大事故について、九州運輸局管内の自動車運送事業者から報告されたものを取りまとめたものです。

重大事故の発生を防止するためには、的確な状況分析を行い背後的要因との関係を正確に把握し、これらに適応した措置を講ずることが緊急の要務であります。

本資料が今後の事故防止対策の一助となれば幸いと存じます。

令和５年９月

九州運輸局　自動車技術安全部　保安・環境課

目　　次

Ⅰ　交通事故の現状

１．交通事故発生状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １

Ⅱ　管内事業用自動車の重大事故発生状況

１．重大事故発生状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ２

２．業態別重大事故発生状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ４

３．事故種類別重大事故発生状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ７

４．事故原因別発生状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０

５．事故惹起運転者の状況（有責事故） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１２

６．事故発生地点の道路状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１５

７．月別・曜日別・時刻別発生状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１７

８．危険認知速度別事故発生状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２０

９．高速道路等における重大事故発生状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・２１

Ⅲ　管内事業用自動車の重大事故統計

１．業態別・県別・年次別重大事故発生状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・２３

２．業態別・事故の種類別・年次別重大事故発生状況 ・・・・・・・・・・・・・２３

３．県別・業態別重大事故発生状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２４

４．県別・業態別・種類別重大事故発生状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・２５

５．そ　の　他 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２８

用　語　の　意　味

１．重大事故とは、自動車事故報告規則第２条に規定する事故をいう。

２．事故（自動車事故報告規則第２条）とは、次のいずれかに該当する自動車事故をいう。

(1) 自動車が転覆し、転落し、火災（積載物品の火災を含む）を起こし、又は鉄道車両（軌道車両を含む）と衝突し、若しくは接触したもの
(2) １０台以上の自動車の衝突又は接触を生じたもの
(3) 死者又は重傷者を生じたもの
(4) １０人以上の負傷者を生じたもの
(5) 自動車に積載された危険物等が飛散し、又は漏えいしたもの
(6) 自動車に積載されたコンテナが落下したもの
(7) 操縦装置又は乗降口の扉を開閉する装置の不適切な操作により、旅客に１１日以上医師の治療を要する傷害が生じたもの
(8) 酒気帯び運転、無免許運転、大型自動車等無資格運転又は麻薬等運転を伴うもの
(9) 運転者の疾病により、事業用自動車の運転を継続できなくなったもの
(10) 救護義務違反があったもの
(11) 自動車の装置の故障により運行できなくなったもの
(12) 車輪の脱落、被牽引自動車の分離を生じたもの（故障によるものに限る）
(13) 鉄道施設を損傷し、３時間以上本線において鉄道車両（軌道車両を含む）の運転を休止させたもの
(14) 高速自動車国道又は自動車専用道路において３時間以上自動車の通行を禁止させたもの
(15) 国土交通大臣が特に必要と認めて報告を指示したもの

３．事故種類の定義は次のとおりとする。

転　覆	当該自動車が道路上において路面と３５度以上傾斜したとき
転　落	当該自動車が道路外に転落した場合で、その落差が０．５メートル以上のとき
路外逸脱	当該自動車の車輪が道路（車道と歩道の区分がある場合は車道）外に逸脱した場合で「転落」以外のとき
火　災	当該自動車又は積載物品に火災が生じたとき
踏　切	当該自動車が踏切において、鉄道車両（軌道車両を含む）と衝突し、又は接触したとき
衝　突	当該自動車が鉄道車両（軌道車両を含む）、トロリーバス、自動車、原動機付自転車、荷牛馬車、家屋その他の物件に衝突し、又は接触したとき
死　傷	当該自動車が通行人（自転車に乗っている者を含む）等自動車に乗車していない者を死傷させたとき
危険物等	危険物、高圧ガス、毒物、劇物等を運搬する自動車に積載された危険物等が飛散、漏えいしたもの又は自動車に積載されたコンテナが落下したもの
車　内	操縦装置又は乗降口の扉を開閉する装置の不適切な操作により、旅客（乗降する際の旅客を含む）を死傷させたとき
飲酒等	酒気帯び運転、無免許運転、大型自動車等無資格運転又は麻薬等運転を伴うもの

健康起因　　運転者の疾病により、運転を継続することができなくなったもの

救護違反　　救護義務違反があったもの

車両故障　　自動車の装置（道路運送車両法第４１条第１項各号に掲げる装置をいう）の故障により、自動車が運行できなくなったもの又は車輪の脱落、被牽引自動車の分離を生じたもの

交通障害　　橋脚、架線その他の鉄道施設を損傷し、３時間以上本線において鉄道車両（軌道車両を含む）の運転を休止させたもの又は高速自動車国道又は自動車専用道路において３時間以上自動車の通行を禁止させたもの

そ の 他　　前各区分に該当しないとき

４．重傷とは次のいずれかの傷害を受けたとき。

(1) 脊柱の骨折

(2) 上腕又は前腕の骨折

(3) 大腿又は下腿の骨折

(4) 内臓の破裂

(5) １４日以上病院に入院することを要する傷害

(6) 病院に入院することを要する傷害で、医師の治療を要する期間が３０日以上のもの

５．死亡とは、事故が原因で死亡したもの。（※事故発生後２４時間以内に死亡したもの）

６．軽傷とは、上記４及び５以外の負傷をいう。

Ⅰ 交通事故の現状

１．交通事故発生状況

令和４年中に全国で発生した交通事故の発生件数、死者数及び負傷者数は、〔表１，表２〕のとおりです。発生件数は前年に比べて4, 357件減の300,839件（-1.4%）で、死者数は26人減の2,610人（-1.0%）、負傷者数は5,530人減の356,601人（-1.5%）となっており、死者数は警察庁が保有する昭和２３年以降の統計で最小となり、平成１６年に過去最悪を記録した交通事故の発生件数及び負傷者数については、１８年連続で減少しました。

九州（沖縄除く）における対前年比については、事故発生件数が1,868件減（-4.9%）、死者数が18人減（-6.3%）、負傷者数は2,214人減（-4.7%）となっています。

〔表1〕　事故件数及び死傷者数等

		令和3年	令和4年	増減数	増減率
全　国	発生件数	305,196	300,839	−4,357	−1.4%
	死者数	2,636	2,610	−26	−1.0%
	負傷者数	362,131	356,601	−5,530	−1.5%
九　州（沖縄を除く）	発生件数	39,917	38,049	−1,868	−4.9%
	死者数	303	285	−18	−6.3%
	負傷者数	49,428	47,214	−2,214	−4.7%

※全国、九州地区の事故件数及び死傷者数は警察庁交通局資料による。

〔表2〕　交通事故の推移

年	件　数	死　者　数	負傷者数	保　有　車　両　数
昭和４５年	７１８，０８０	**１６，７６５**	９８１，０９６	１８，５８６，５０３
５０	４７２，９３８	１０，７９２	６２２，４６７	２８，９３４，０２０
６０	５５２，７８８	９，２６１	６８１，３４６	４７，８６１，６９１
平成７年	７６１，７９４	１０，６８４	９２２，６７７	７０，０７３，５４４
１３	９４７，２５３	８，７５７	１，１８１，０３９	７６，６６４，２８６
１４	９３６，９５０	８，３９６	１，１６８，０２９	７７，３０４，３１３
１５	９４８，２８１	７，７６８	１，１８１，６８１	７７，５８０，６５８
１６	**９５２，７２０**	７，４３６	**１，１８３，６１７**	７８，０９１，０９７
１７	９３４，３４６	６，９３７	１，１５７，１１３	７９，２０７，２０７
１８	８８７，２６７	６，４１５	１，０９８，５６４	７９，４５２，５５７
１９	８３２，７０４	５，７９６	１，０３４，６５２	７９，３７１，０１４
２０	７６６，３９４	５，２０９	９４５，７０３	７９，２３６，５３２
２１	７３７，６３７	４，９７９	９１１，２１５	７９，０４２，０５６
２２	７２５，９２４	４，９４８	８９６，２９７	７９，０９１，５３６
２３	６９２，０８４	４，６９１	８５４，６１３	７９，２４１，７３８
２４	６６５，１５７	４，４３８	８２５，３９２	７９，１１２，５８４
２５	６２９，０３３	４，３８８	７８１，４９２	７９，６２５，２０３
２６	５７３，８４２	４，１１３	７１１，３７４	８０，２７２，５７１
２７	５３６，８９９	４，１１７	６６６，０２３	８０，６７０，３９３
２８	４９９，２０１	３，９０４	６１８，８５３	８１，６０２，０４６
２９	４７２，１６５	３，６９４	５８０，８５０	８１，９４６，０３６
３０	４３０，６０１	３，５３２	５２５，８４６	８２，１９２，８２８
令和元年	３８１，２３７	３，２１５	４６１，７７５	８２，３４１，７６２
２	３０９，１７８	２，８３９	３６９，４７６	８２，４７１，６７８
３	３０５，１９６	２，６３６	３６２，１３１	８２，５６５，０９１
４	３００，８３９	２，６１０	３５６，６０１	**８２，７３９，６１９**

警察庁交通局資料より抜粋……青色部分は最高値

Ⅱ 管内事業用自動車の重大事故発生状況

１．重大事故発生状況

① 重大事故発生件数及び被害状況

管内で令和４年中に、自動車事故報告規則に基づき自動車運送事業者より報告された重大事故の発生件数及び被害状況は〔表3〕のとおりです。

〔表3〕 重大事故発生件数及び被害状況

項目＼年	令和3年	令和4年	増減数
件数(件)	278	268	−10
死者数(人)	48	45	−3
負傷者数(人)	205	177	−28

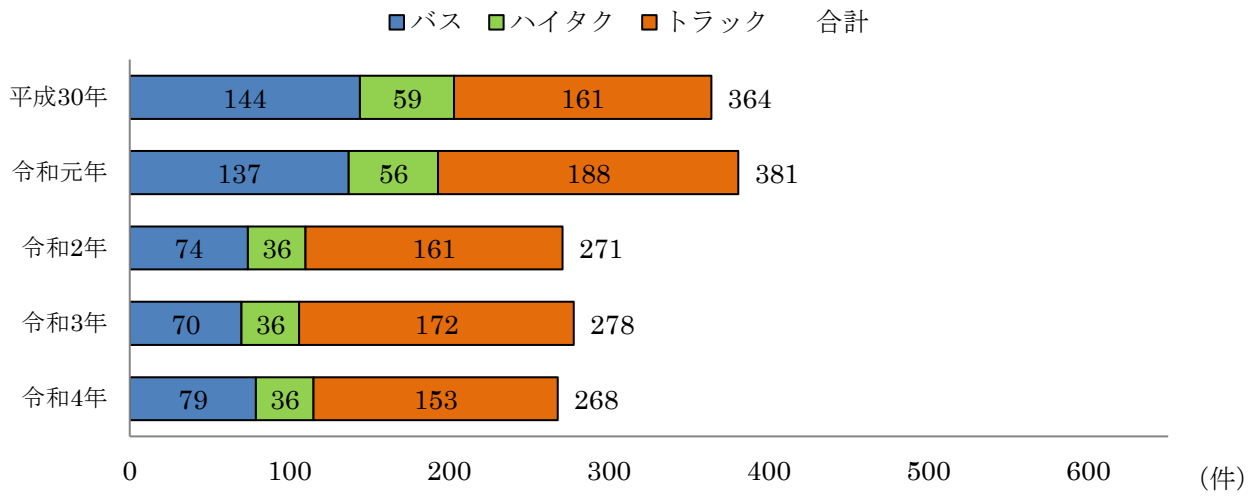
② 重大事故発生件数及び死傷者数の推移

重大事故発生件数及び死傷者数の推移は〔表4〕及び〔図1-1〕～〔図1-3〕のとおりです。

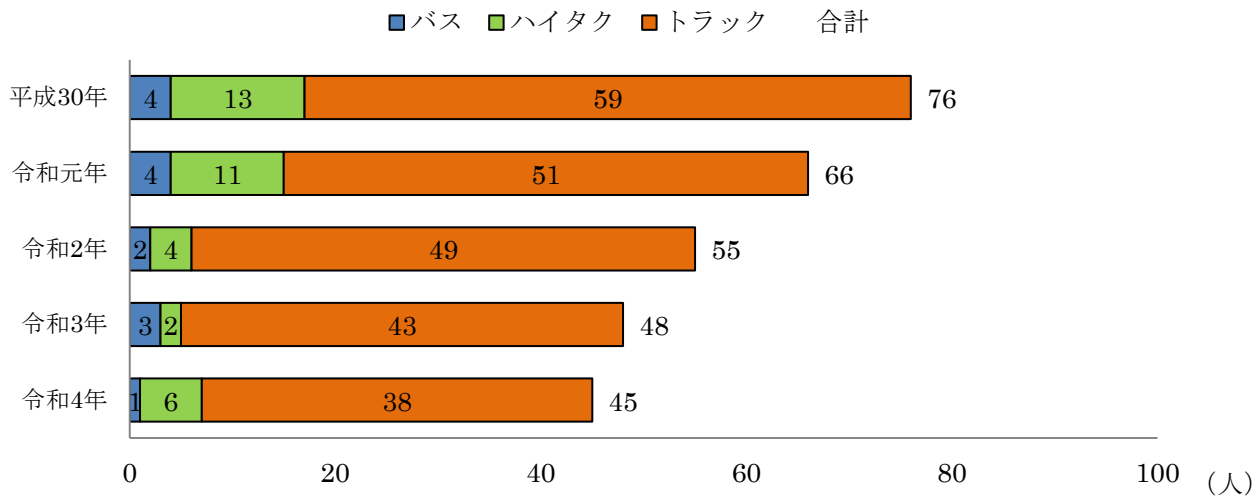
〔表4〕 重大事故発生件数及び死者数の推移

項　目＼年　別	平成３０年	令和元年	令和２年	令和３年	令和４年
件　　数（件）	３６４	３８１	２７１	２７８	２６８
死　者　数（人）	７６	６６	５５	４８	４５
負　傷　者　数（人）	２６９	３５９	１９８	２０５	１７７

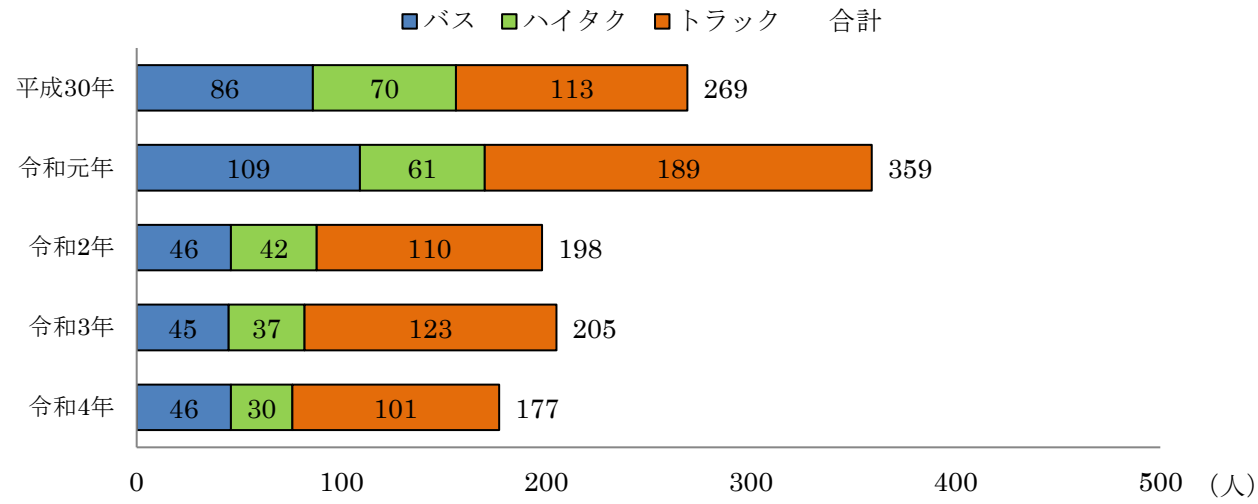
〔図1-1〕　重大事故発生件数の推移



〔図1-2〕　重大事故による死者数の推移



〔図1-3〕　重大事故による負傷者の推移



２．業態別重大事故発生状況

令和４年中における事業用自動車の重大事故発生状況を、事業の業態別に示すと〔表5〕のとおりです。

総件数２６８件に対する業態別発生件数の割合は〔図2〕にあるように、トラックによるものが最も多く全体の57%を占めており、次いでバス30%、ハイタク13%となっています。

業態別の死者、重傷者の内訳をみると〔図3〕のとおりで、死者の内85%がトラックによるもので、ハイタク13%、バス2%、となっています。 また、重傷者については50%がトラックによるもので、ハイタクが26%、バスが24%となっています。

業態別事故100件当たりの人身被害者数は〔図4〕のとおり、死者の発生状況ではトラックによるものが最も多く24.8人、次いでハイタクが16.7人、バスが1.3人となっており、重傷者についてはハイタクが最も多く63.9人、次いでトラックが28.8人、バスが26.6人となっています。また、事故100件当たりの死者数の推移は〔図5〕のとおり、ハイタクは昨年の5.6人から16.7人と大きく増加しています。

〔表5〕業態別重大事故発生状況

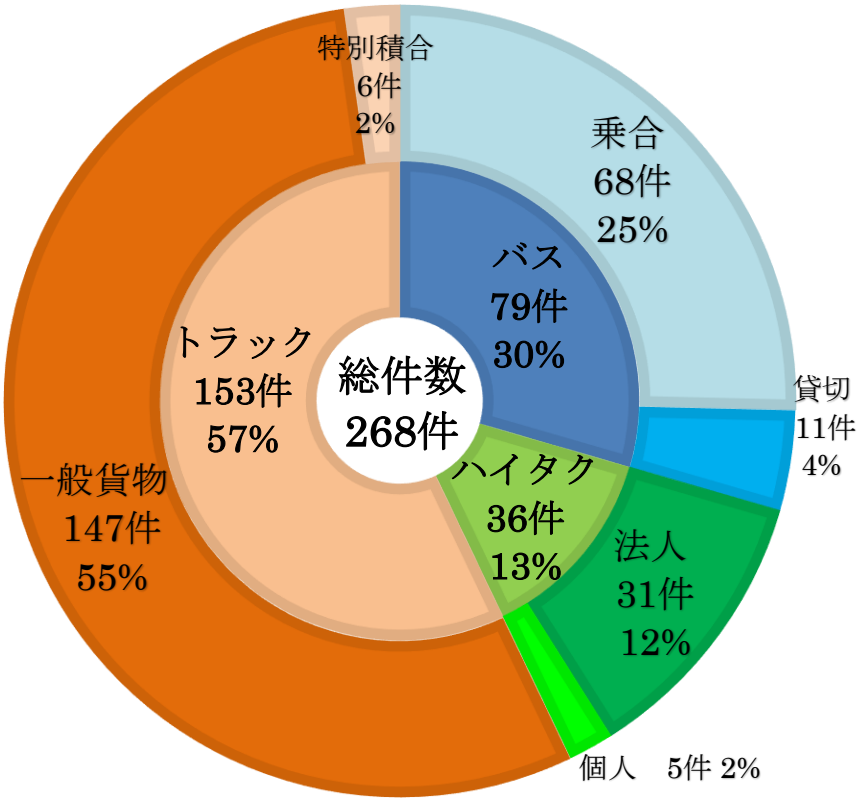
【九州】

区分＼業態別		バス	ハイタク	トラック	合計
件　数		79	36	153	268
死　者		1	6	38	45
負傷者	重傷者	21	23	44	88
	軽傷者	25	7	57	89
	計	46	30	101	177
事故百件当り	死　者	1.3	16.7	24.8	16.8
	重傷者	26.6	63.9	28.8	32.8
	軽傷者	31.6	19.4	37.3	33.2

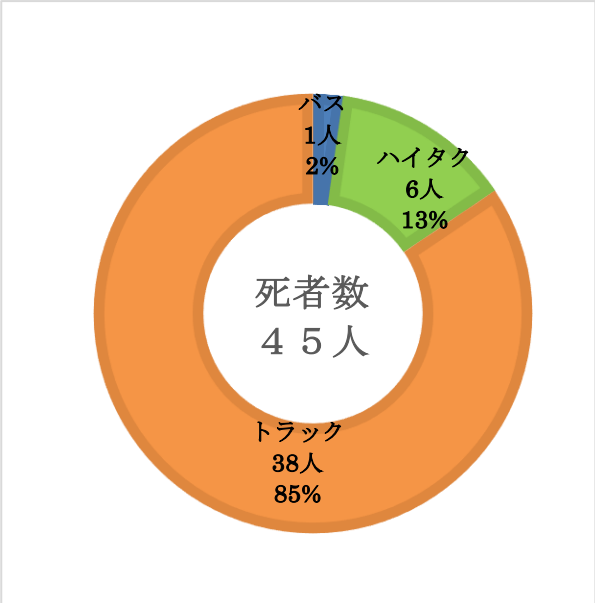
【参考　全国業態別重大事故発生状況】

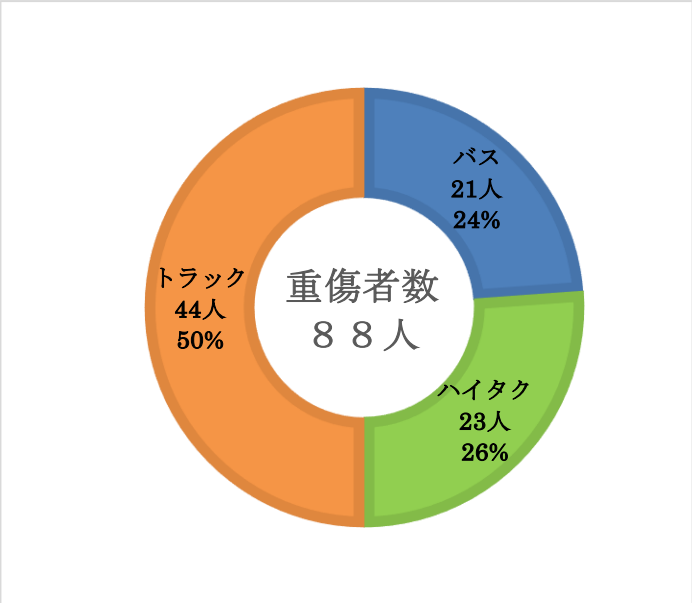
区分＼業態別		バス	ハイタク	トラック	合計
件　数		2,484	383	1,771	4,638
死　者		27	49	390	466
負傷者	重傷者	182	212	491	885
	軽傷者	312	152	547	1,011
	計	494	364	1,038	1,896
事故百件当り	死　者	1.1	12.8	22.0	10.0
	重傷者	7.3	55.4	27.7	19.1
	軽傷者	12.6	39.7	30.9	21.8

〔図2〕　業態別重大事故発生状況

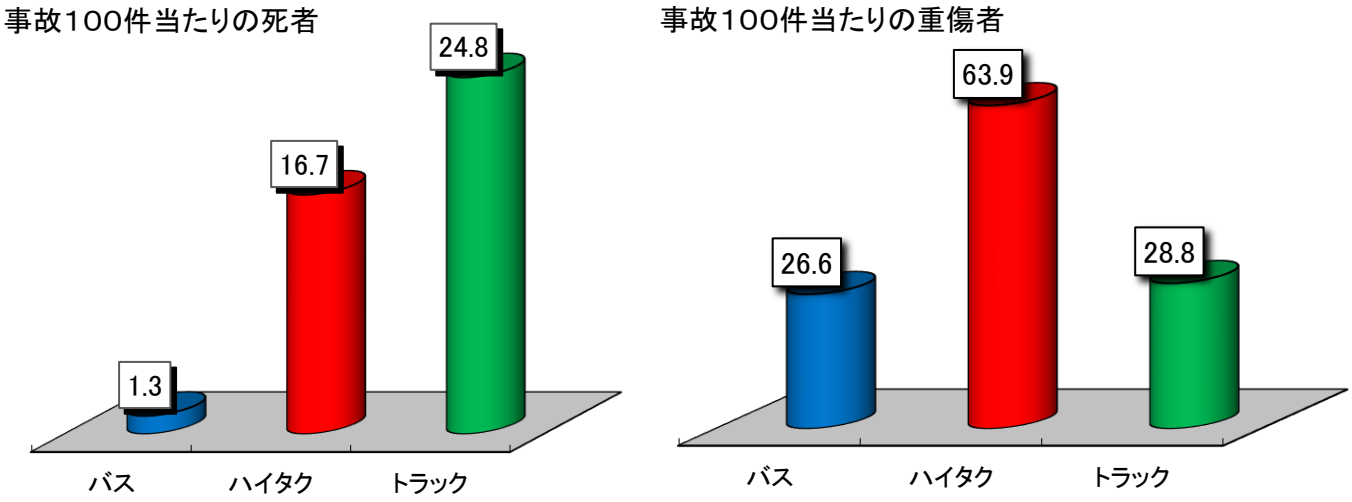


〔図3〕　業態別人身被害者数の内訳

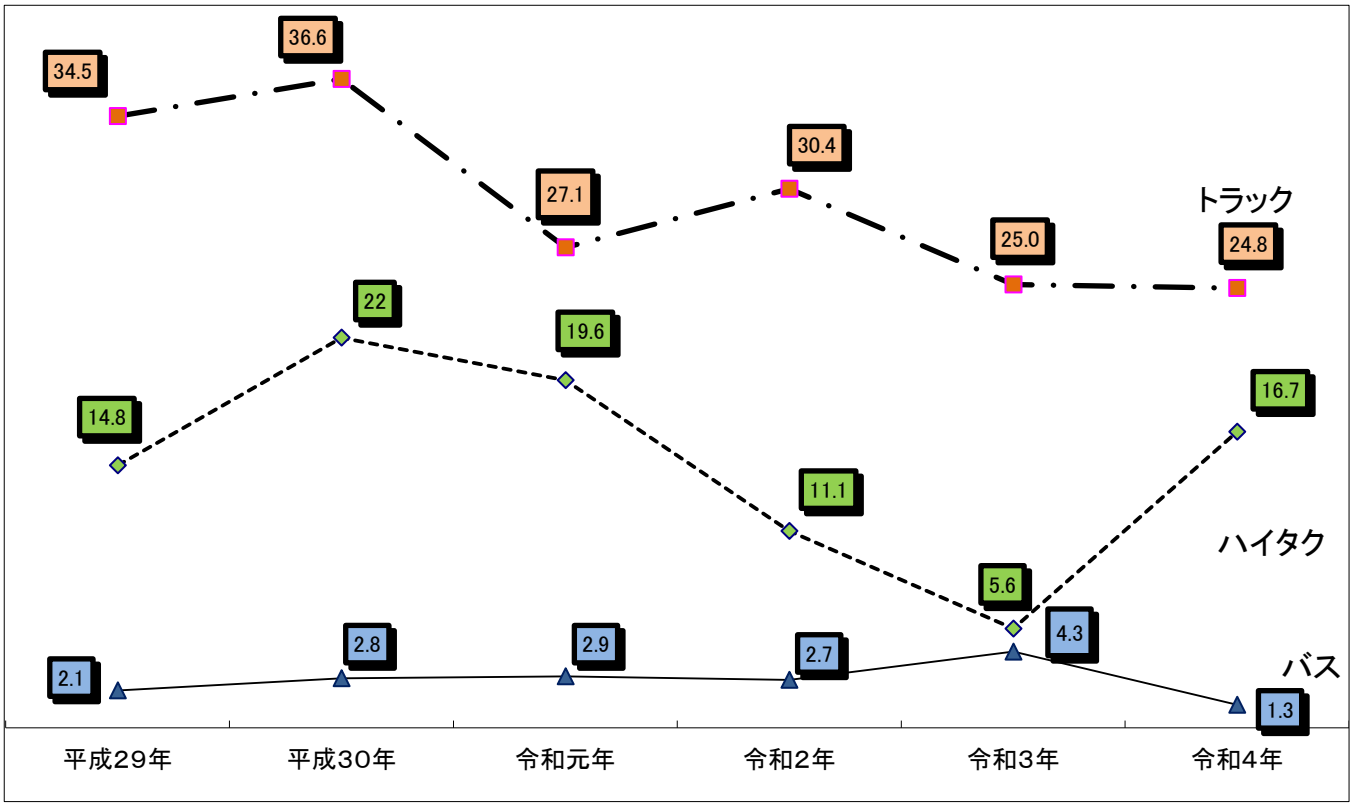




〔図4〕　業態別事故１００件当たりの人身被害者数



〔図5〕　業態別事故１００件当たりの死者数の推移

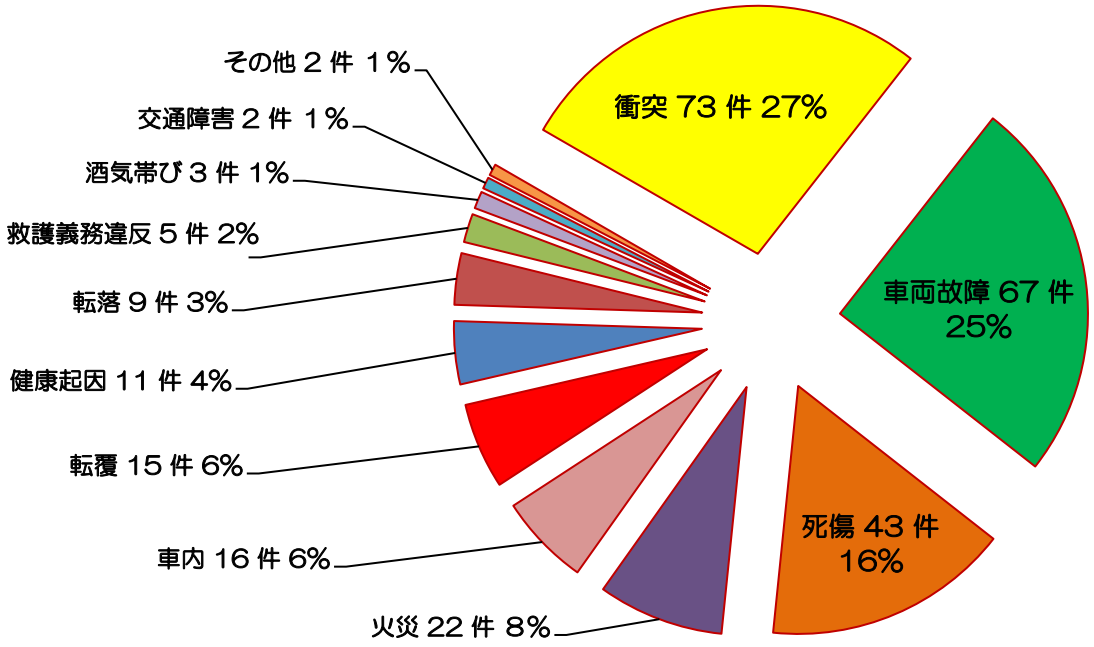


３．事故種類別重大事故発生状況

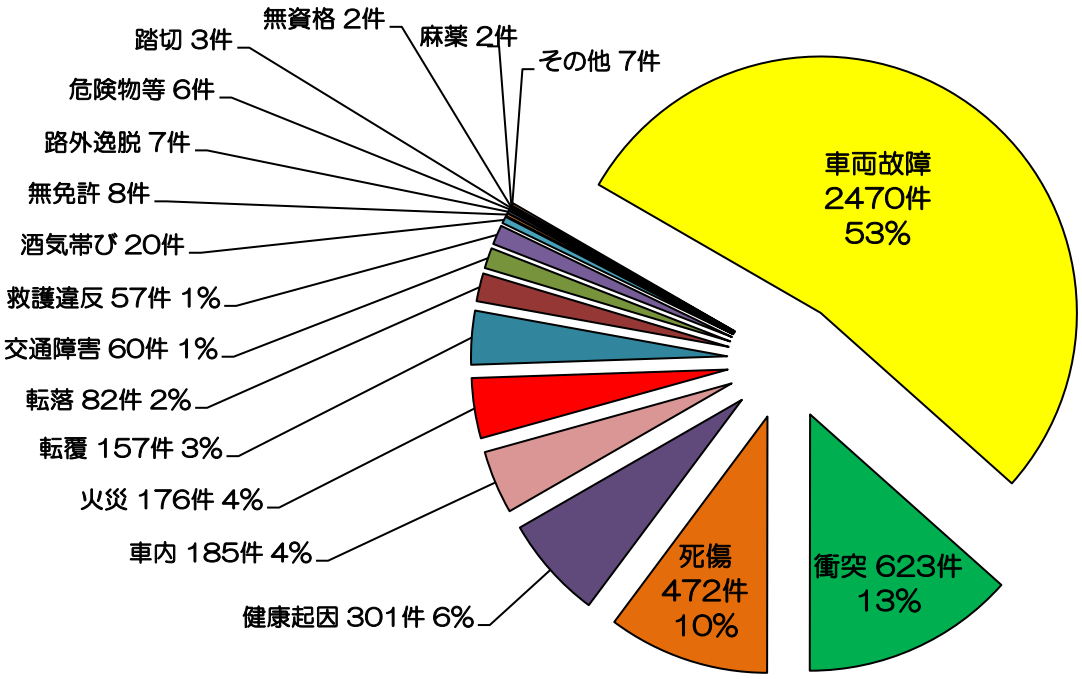
①　事故種類別発生状況

事故の種類別発生状況は〔図6-1〕のとおりです。衝突が最も多く27%、次いで車両故障が25%となっており、この２種類の事故で全体の52%を占めています。また死者数については、〔図6-2〕のとおり衝突事故によるものが56%、死傷事故によるものが33%となっており、この２種類の事故で死者数全体の89%を占めています。

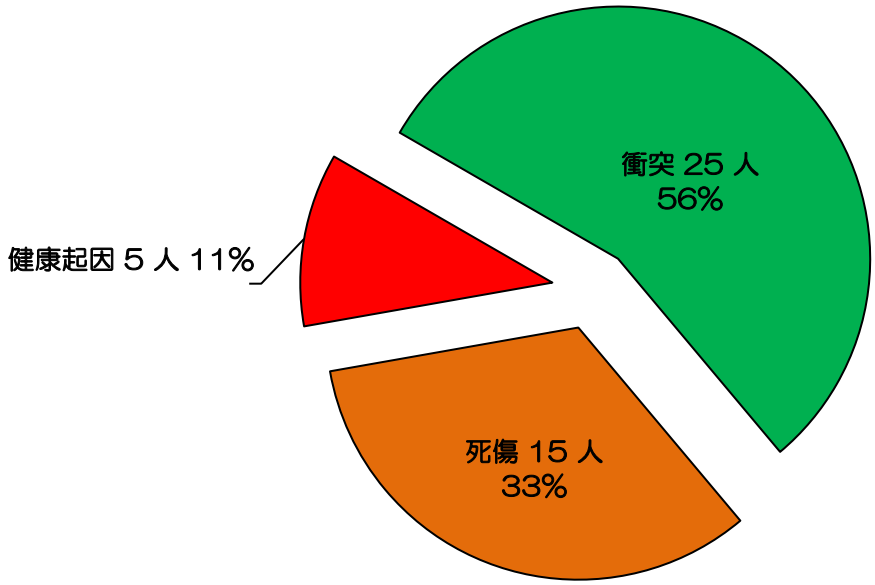
〔図6-1〕　事故種類別重大事故発生状況（総件数２６８件）



【参考　全国事故種類別重大事故発生状況（総件数　４，６３８件）】



〔図6-2〕 事故種類別死者数（死者数 ４５人）



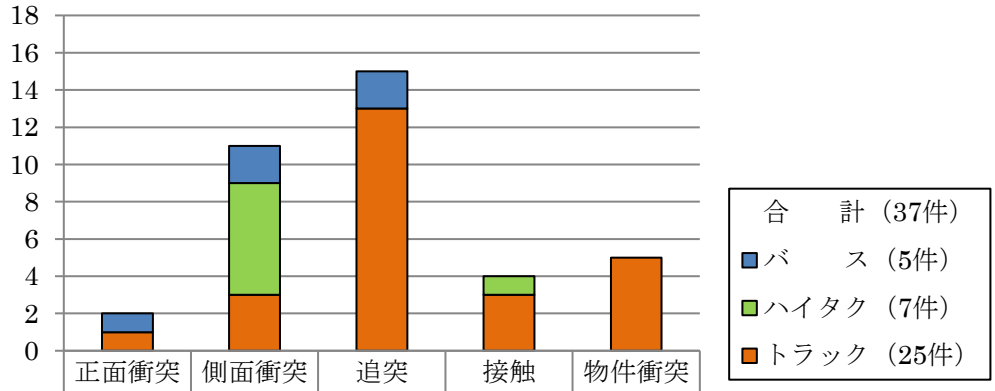
② 衝突事故

重大事故のうち最も多い衝突事故を業態別にみると〔表6〕のとおりです。衝突事故の50.7%は当該自動車の乗務員に起因するものです。その衝突の状態は〔図7〕のとおり追突が最も多く、乗務員に起因する衝突事故の40.5%を占めており、次いで側面衝突が29.7%を占めています。

〔表6〕業態別衝突事故発生状況

業態	件数	乗務員に起因するもの	構成比
バス	10	5	50.0%
ハイタク	10	7	70.0%
トラック	53	25	47.2%
計	73	37	50.7%

〔図7〕 業態別衝突状態（乗務員に起因するもの ３７件）



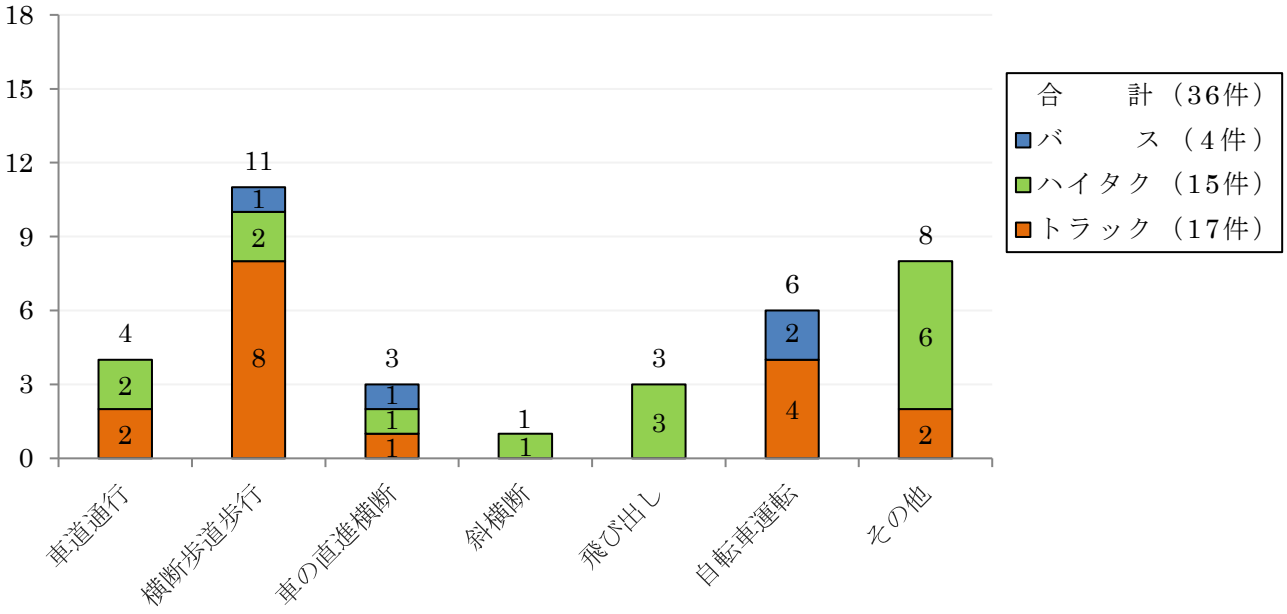
	正面衝突	側面衝突	追突	接触	物件衝突
合　計（37件）	2	11	15	4	5
バ　ス（5件）	1	2	2	0	0
ハイタク（7件）	0	6	0	1	0
トラック（25件）	1	3	13	3	5

③　死傷事故

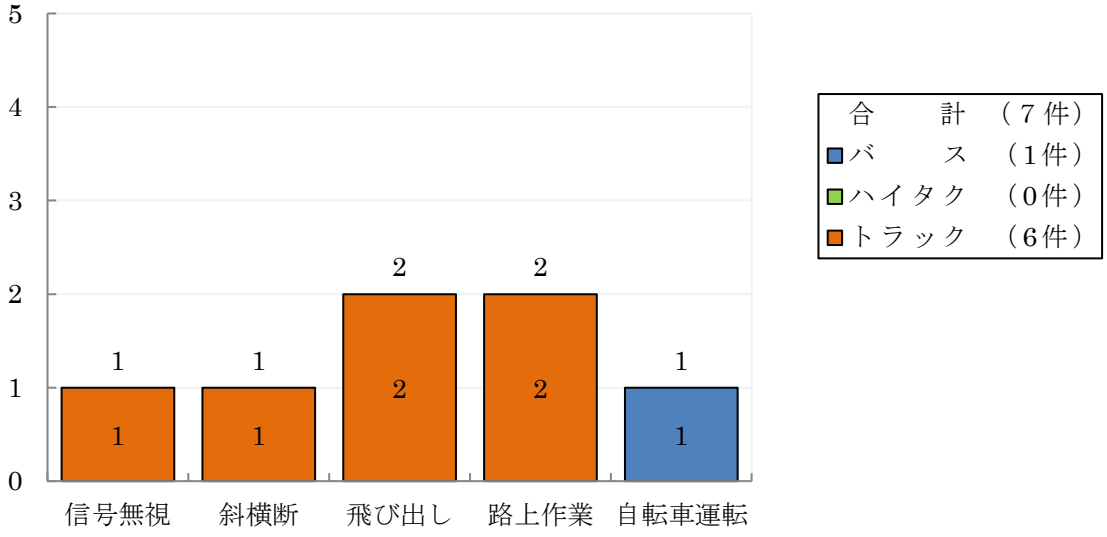
死傷事故は、[図6－1]のとおり全事故件数の16%にあたる43件で、業態別内訳はバス5件、ハイタク15件、トラック23件となっており、また、死傷事故の83.7%（36件）は乗務員に起因する事故となっています。　事故当時の死傷者の主な状態は〔図8-1〕及び〔図8-2〕のとおりで、乗務員に起因する事故においては「横断歩道歩行」、「自転車運転」での事故が多く、歩行者等に起因する事故においては「飛び出し」「路上作業」による事故が多くなっています。

〔図8-1〕　業態別死傷者状態

（乗務員に起因するもの　３６件）



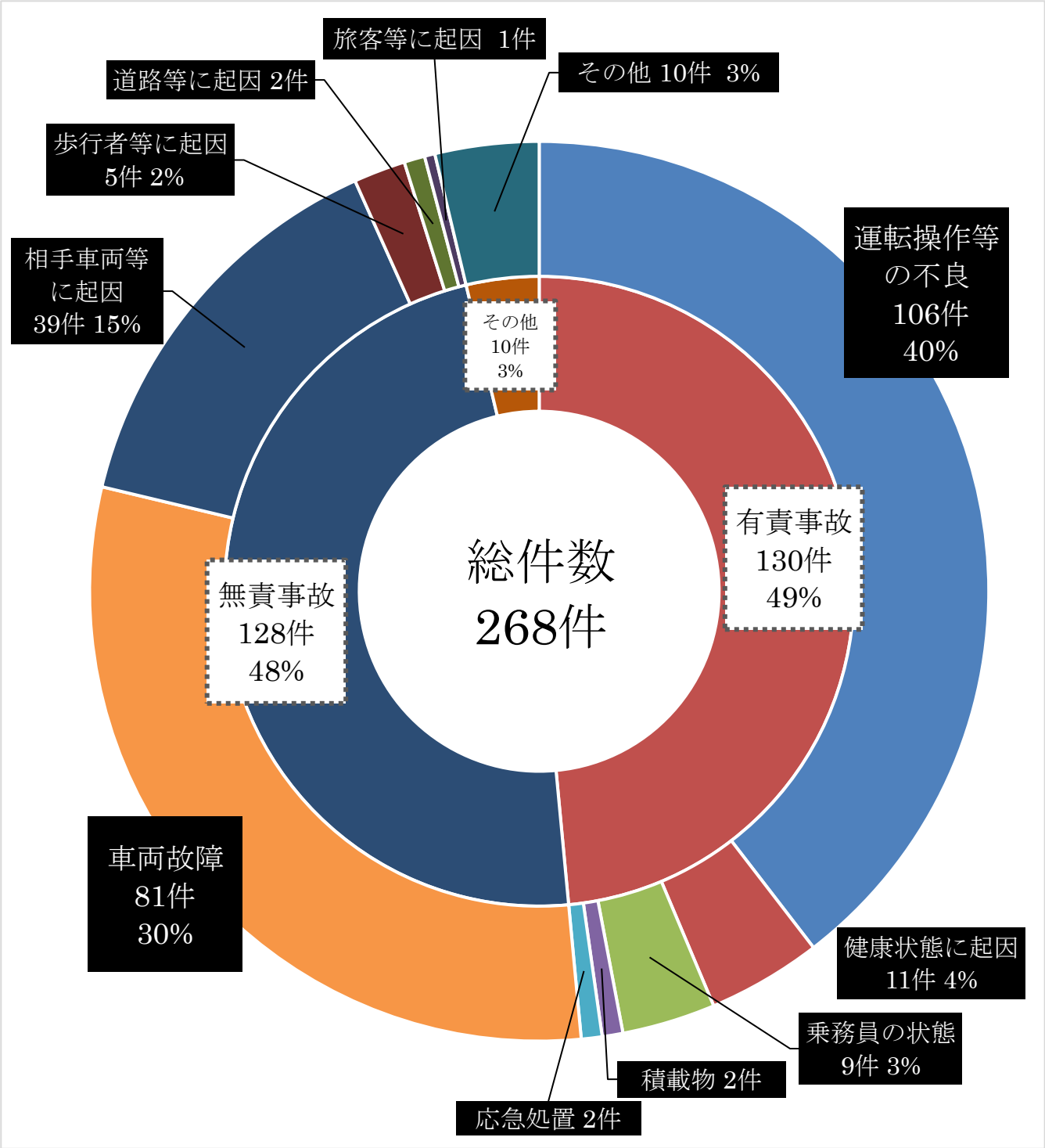
〔図 8-2〕　（歩行者等に起因するもの　７件）



４．事故原因別発生状況

事故の原因を事業用自動車の運転者に起因する事故（以下「有責事故」という）と相手側に起因する事故等（以下「無責事故」という）に分けると、〔図 9〕のとおり有責事故が 130 件（49%）、無責事故が 128 件（48%）で、有責事故の方が若干高い割合を占めています。また、有責事故 130 件中 106 件は運転者の運転操作不良によるものとなっています。

〔図9〕 原因別重大事故発生状況



更に、有責事故について、その内容を業態別、事故原因上位の項目をみると〔表 7〕のとおりです。業態別にみるとバスは「発車時の安全確認の不良又は不履行」、ハイタクは「歩行者に対する不注意」、トラックは「漫然運転」による事故が多くなっています。

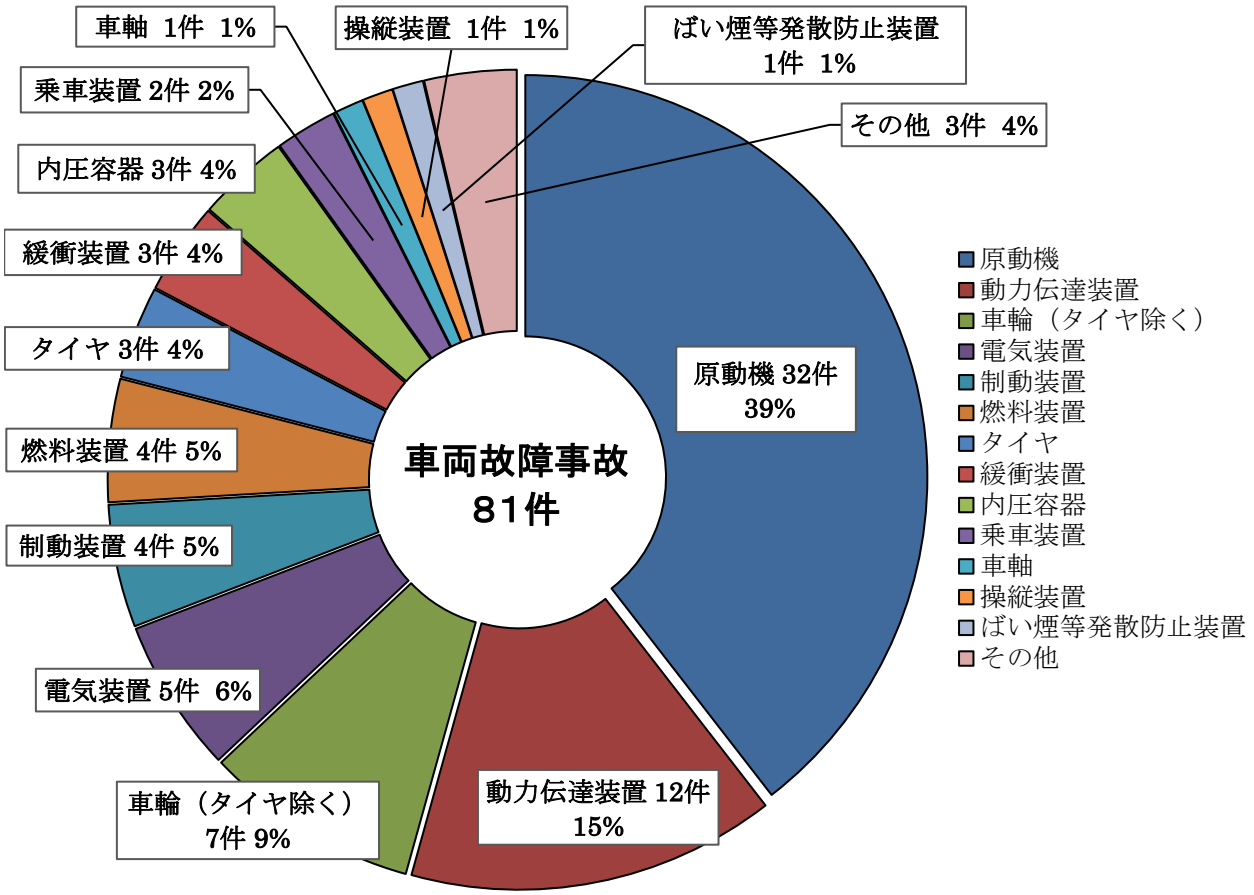
また、車両故障に起因するものは 81 件発生しており、発生状況は〔図 10〕のとおりです。

〔表 7〕有責事故の状況（第 1 原因）

業　態	順　位	事　故　原　因	件　数	比　率
バス	1	発車時の安全確認の不良又は不履行	6	２２．２%
	2	歩行者に対する不注意	3	１１．１%
	2	制動操作不適切	3	１１．１%
ハイタク	1	歩行者に対する不注意	8	２６．７%
	2	左折、右折不適切	4	１３．３%
トラック	1	漫然運転	8	１１．０%
	2	脇見運転	7	９．６%
	2	歩行者に対する不注意	7	９．６%
	2	安全速度の不履行	7	９．６%

※第一原因のみ集計したものです。

〔図 10〕　車両故障に起因する事故発生状況



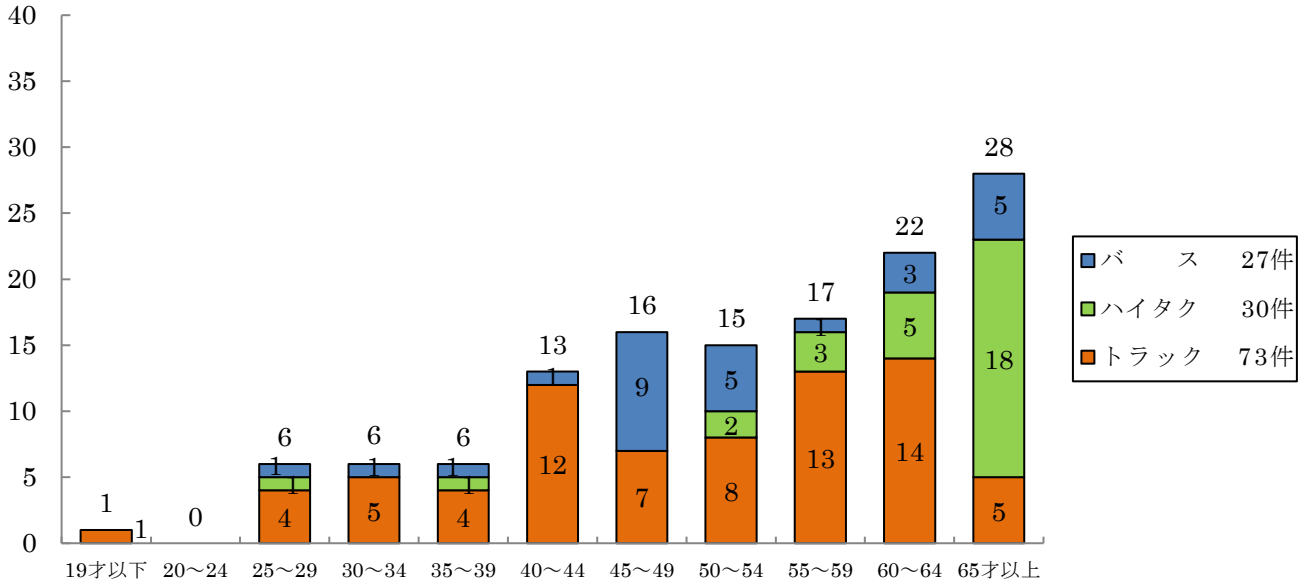
５．事故惹起運転者の状況（有責事故）

有責事故を惹起した運転者の状況は次のとおりです。

① 運転者の年齢

運転者の年齢を業態別にみると、バスについては45～49歳の運転者による事故が多く、ハイタクについては65歳以上の運転者による事故が多くなっています。トラックについては、60～64歳の運転者による事故が多くなっています。

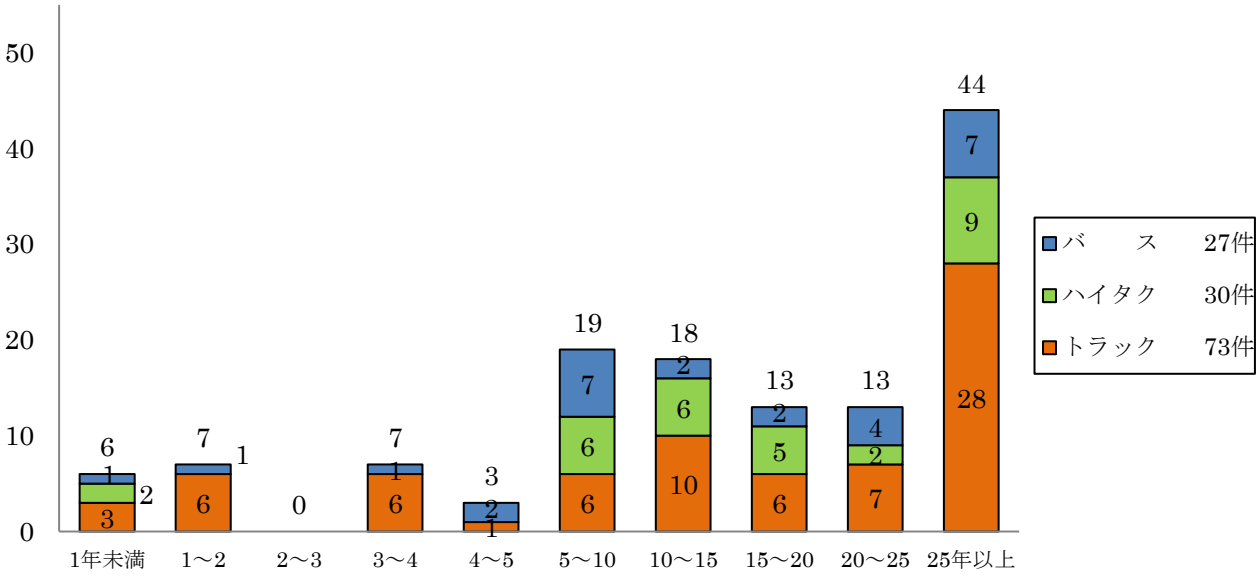
〔図11〕 有責事故発生運転者の年齢（有責事故件数 １３０件）



② 運転者の経験年数

運転手の経験年数については〔図 12〕のとおりです。経験年数と比例して事故が減少する傾向は見られず、5 年以上の経験年数を積んでいる運転者の事故も多く発生しており、特に経験年数 25 年以上の運転者による事故が多くなっています。

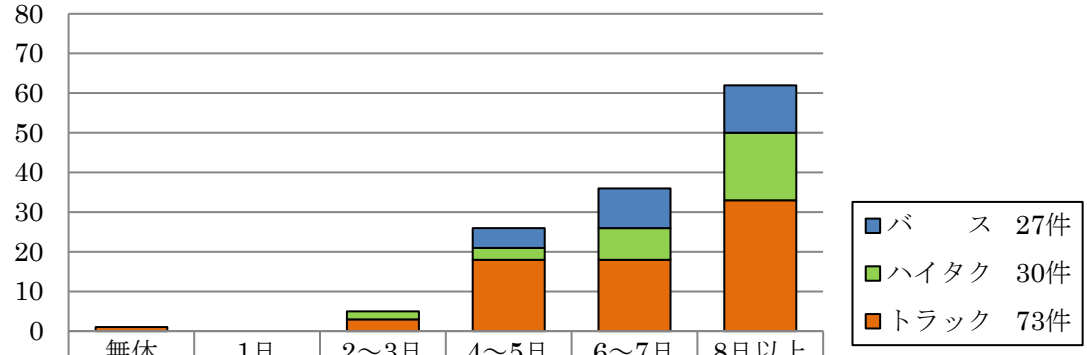
〔図12〕 有責事故発生運転者の経験年数（有責事故件数 １３０件）



③　有責事故発生日以前１ヶ月間の休日日数

事故発生運転者の休暇状況は〔図13〕のとおり、１ヶ月間に８日以上の休暇をとっていた運転者が全体の47.7%となっています。

〔図13〕　事故発生以前１ヶ月間の休日日数（有責事故件数　１３０件）

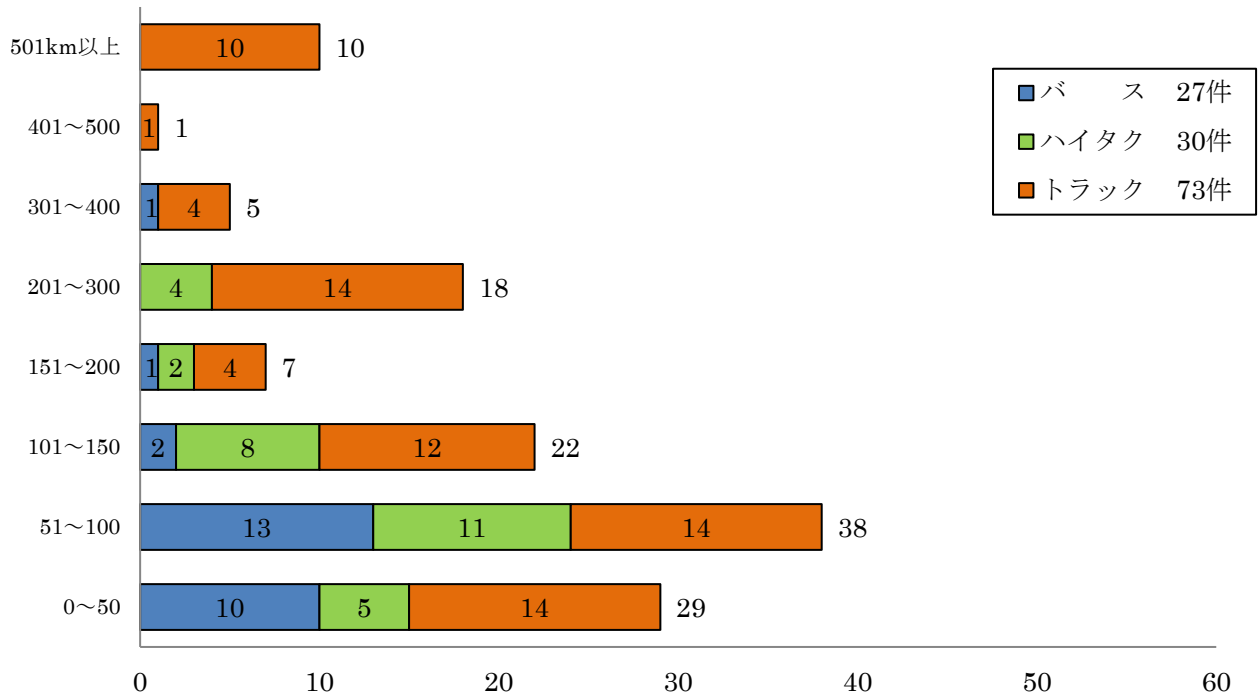


	無休	1日	2～3日	4～5日	6～7日	8日以上
合　計　130件	1	0	5	26	36	62
バ　ス　27件	0	0	0	5	10	12
ハイタク　30件	0	0	2	3	8	17
トラック　73件	1	0	3	18	18	33

④　事故発生日における乗務距離

事故当日における乗務距離は〔図14〕のとおり、乗務開始から100kmまでに事故を起こしたものが全体の51.5%を占めています。

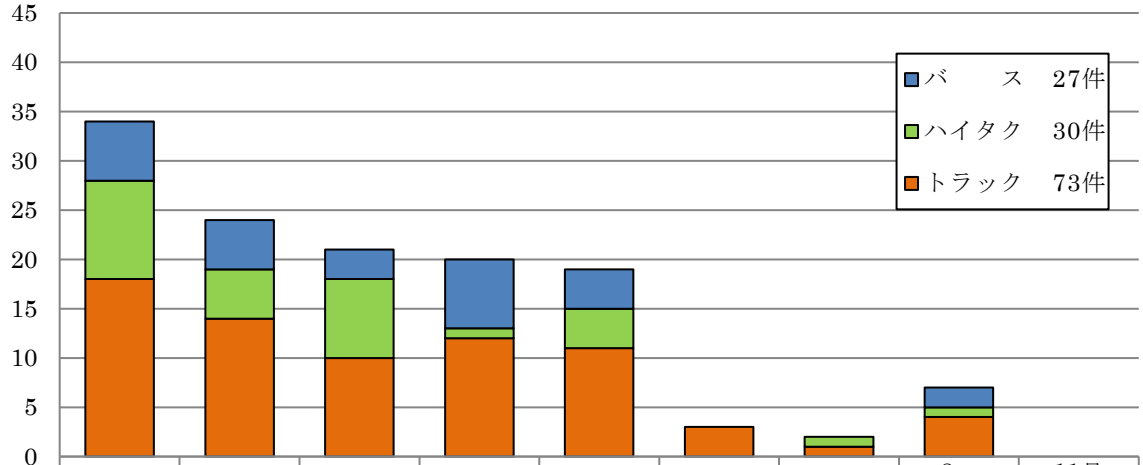
〔図14〕　乗務開始から事故発生までの乗務距離（有責件数　１３０件）



⑤　最近の休日から事故当日までの勤務日数及び乗務距離

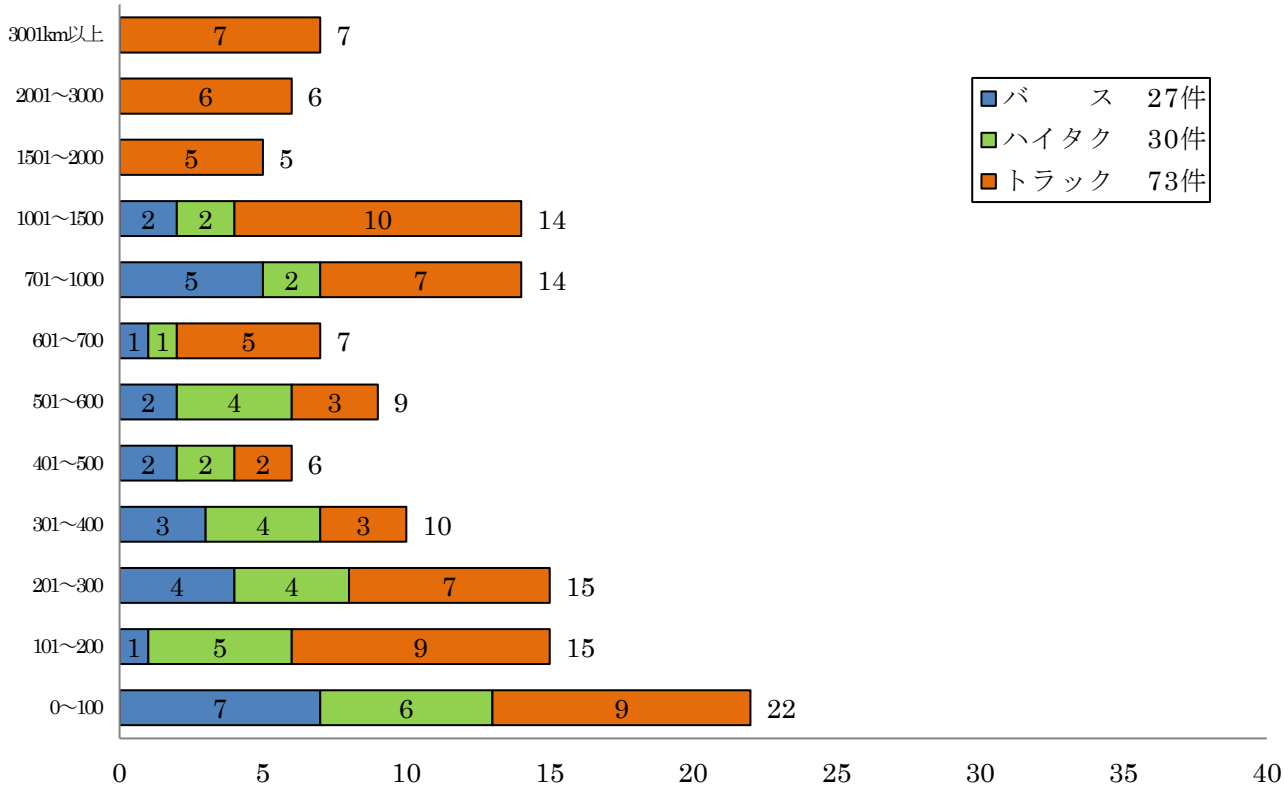
事故発生運転者の、最近の休日から事故発生までの勤務日数及び乗務距離は、〔図15〕及〔図16〕のとおりです。休日明け（1日）に全体の26.2%の事故が発生しており、休日明けの乗務開始時に事故が多いことを示しています。

〔図15〕　休日から事故発生までの勤務日数（有責事故件数　１３０件）



	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8～10日	11日以上
合　計 130件	34	24	21	20	19	3	2	7	0
バ　ス 27件	6	5	3	7	4	0	0	2	0
ハイタク 30件	10	5	8	1	4	0	1	1	0
トラック 73件	18	14	10	12	11	3	1	4	0

〔図16〕　休日から事故発生までの乗務距離（有責事故件数　１３０件）

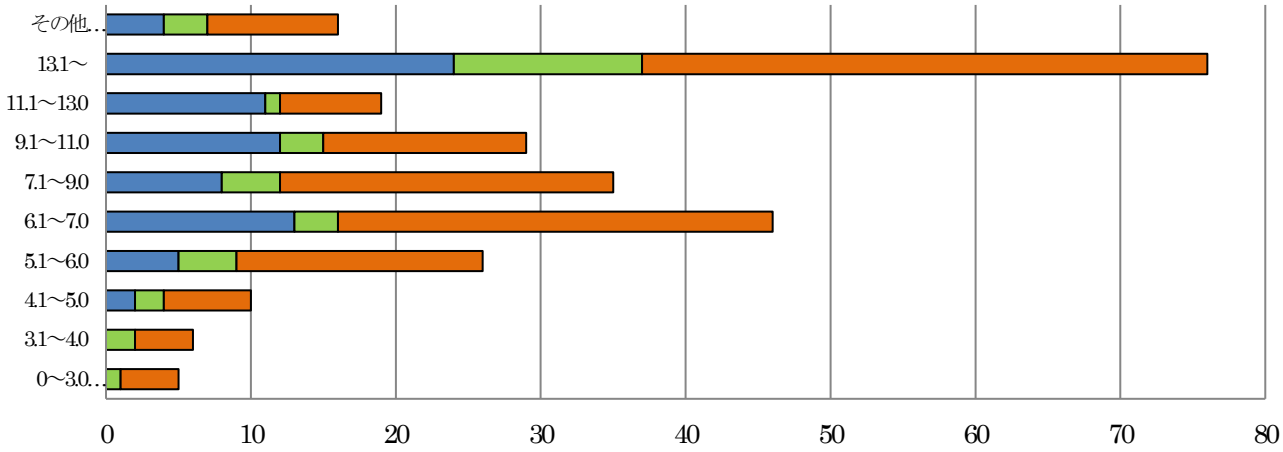


６．事故発生地点の道路状況

①　道路幅員

事故発生地点の道路幅員についてみると〔図17〕のように、狭い道路よりも幅員のある道路での事故発生が多く、13.1m以上の道路での事故が28.4%となっています。

〔図17〕　道路幅員における事故発生状況（総件数　２６８件）

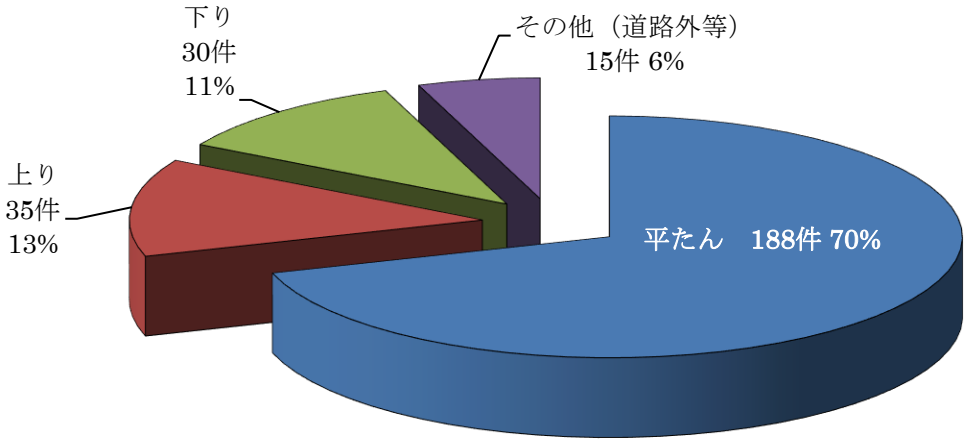


	0～3.0 (m)	3.1～4.0	4.1～5.0	5.1～6.0	6.1～7.0	7.1～9.0	9.1～11.0	11.1～13.0	13.1～	その他 (路外等)
バ　　ス 79件	0	0	2	5	13	8	12	11	24	4
ハイタク 36件	1	2	2	4	3	4	3	1	13	3
トラック 152件	4	4	6	17	30	23	14	7	39	9
合　　計 268件	5	6	10	26	46	35	29	19	76	16

②　道路勾配

事故発生地点の道路勾配についてみると〔図18〕のように、「平たん」が全体の70%を占め、次いで「上り」の13%、「下り」の11%となっています。

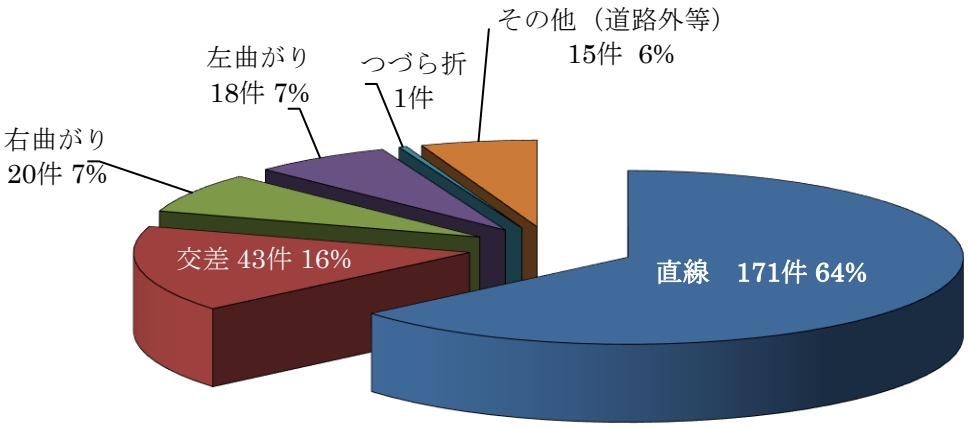
〔図18〕　道路の勾配等における事故発生状況（総件数　２６８件）



③　道路の形態

道路の形態についてみると〔図19〕のように、直線道路での事故が最も多く全体の64%を占めており、次いで交差点での事故が16%となっています。

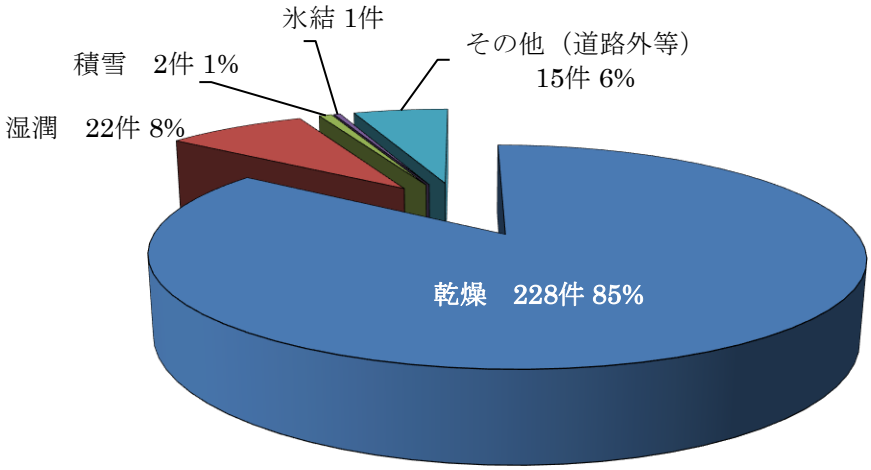
〔図19〕　直進、曲線等別事故発生状況（総件数　２６８件）



⑤　路面の状態

路面の状態についてみると〔図20〕のように、乾燥路面が最も多く全体の85%を占めており、次いで湿潤が8%となっています。

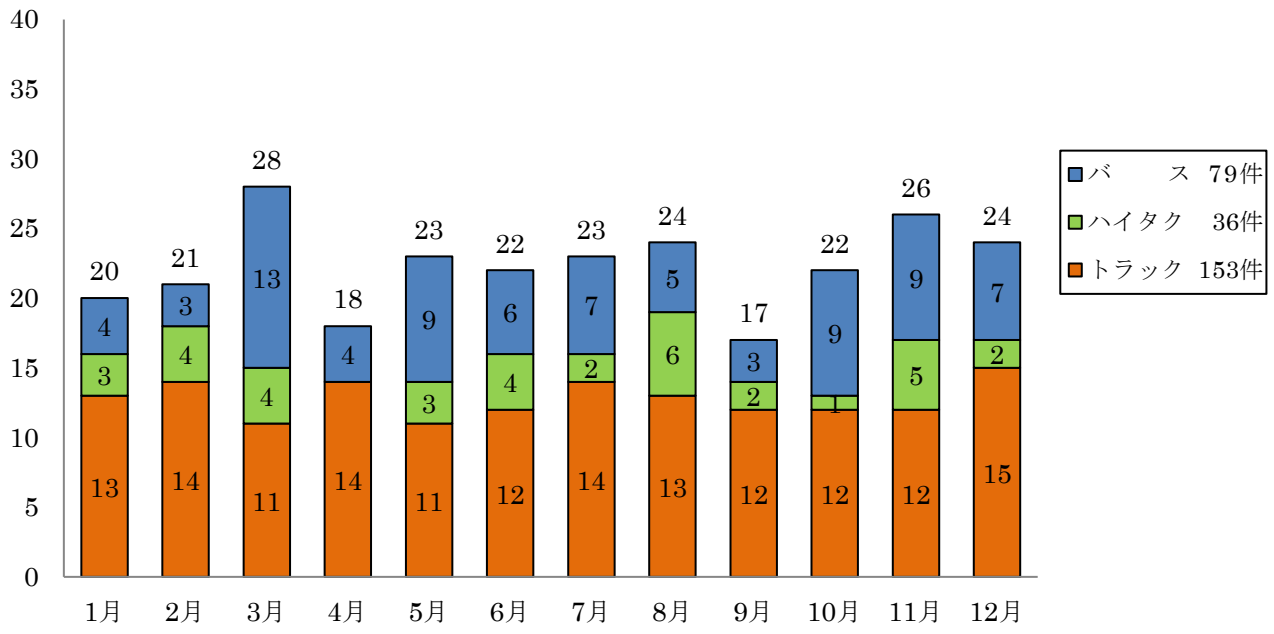
〔図20〕　路面の状態別事故発生状況（総件数　２６８件）



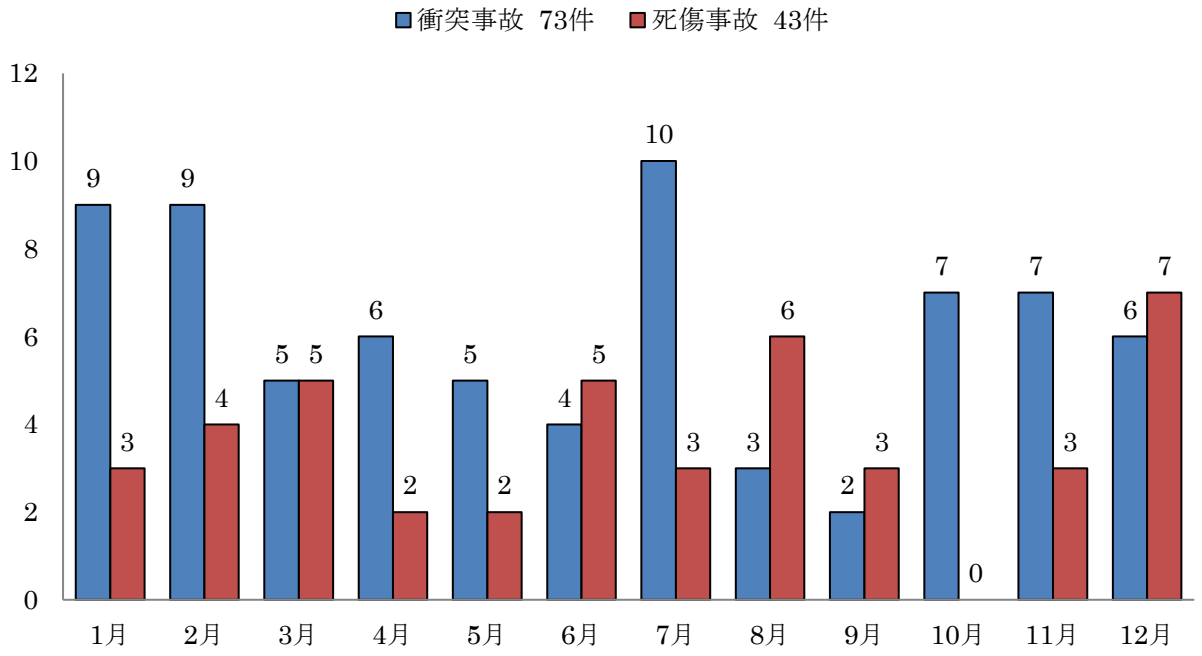
７．月別・曜日別・時刻別事故発生状況

①　月別業態別事故発生状況

〔図21-1〕　月別業態別事故発生状況（総件数　２６８件）



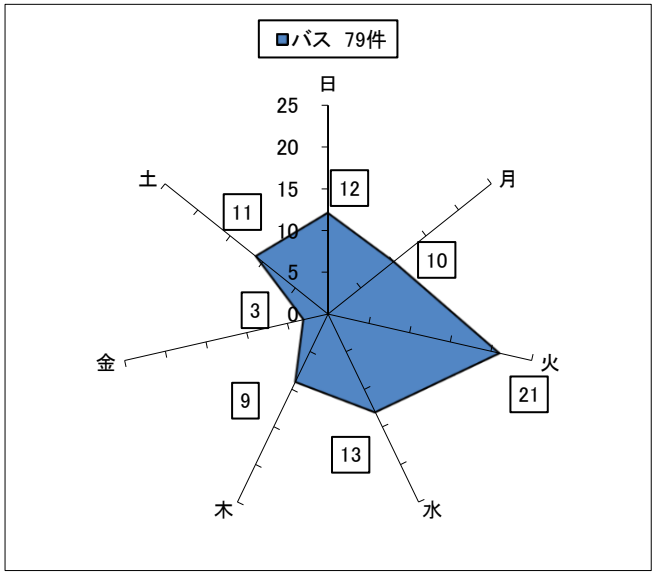
〔図21-2〕　月別・種類別事故発生状況（衝突事故、死傷事故）

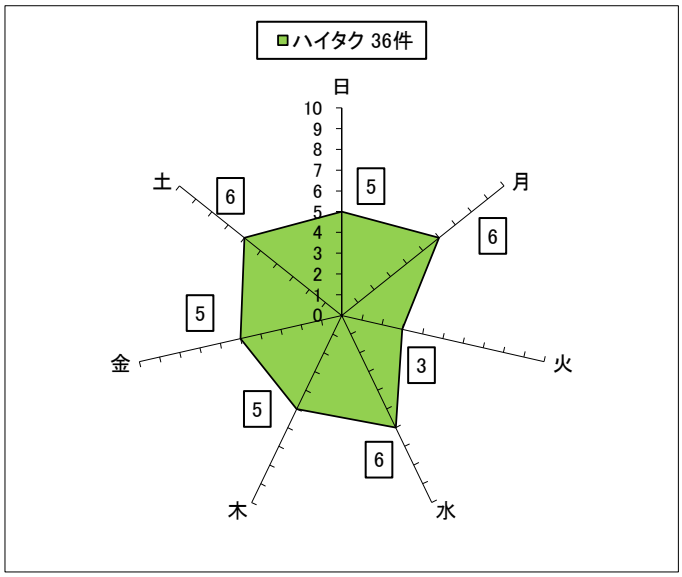


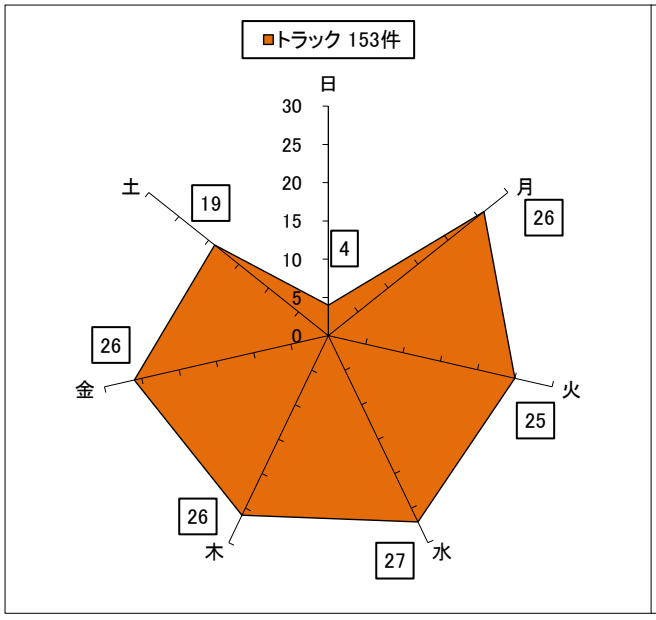
② 曜日別事故発生状況

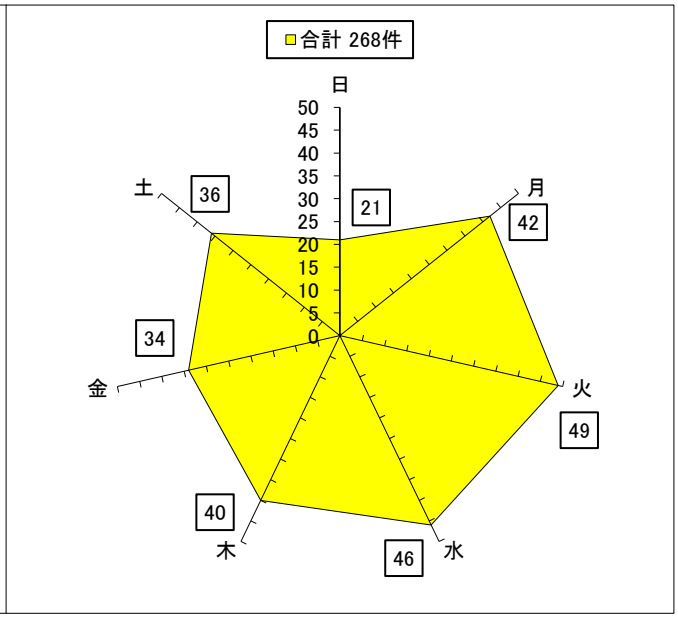
曜日別の事故発生状況については〔図22〕のとおり、バスについては火曜日が多く、金曜日は少なくなっています。ハイタクについては火曜日が少なく、トラックについては日曜日の事故が少なくなっています。

〔図22〕 曜日別事故発生状況





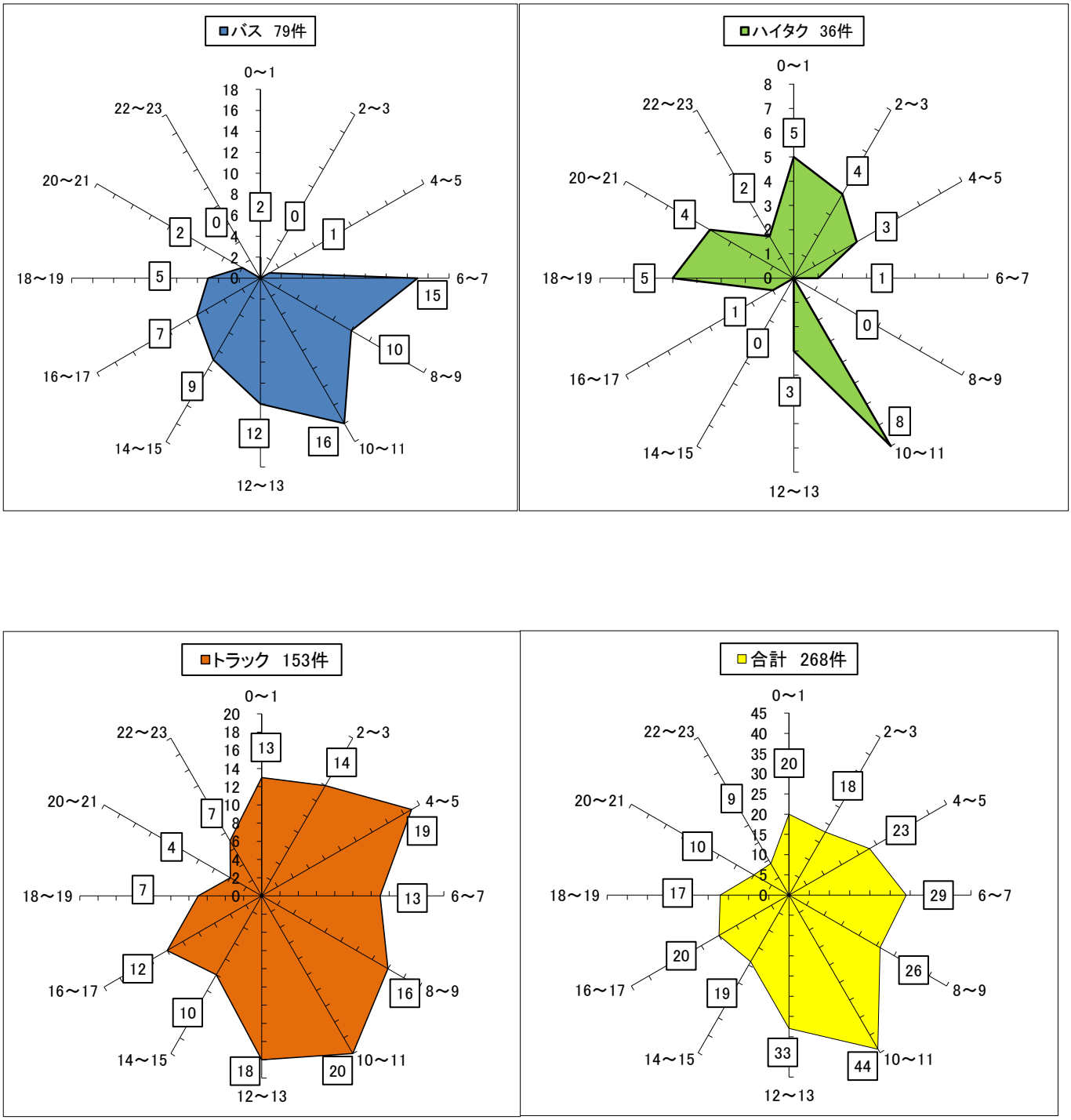




③　時刻別事故発生状況

時刻別の事故発生状況は〔図23〕のとおり、１０時～１１時台に事故が多くなっています。

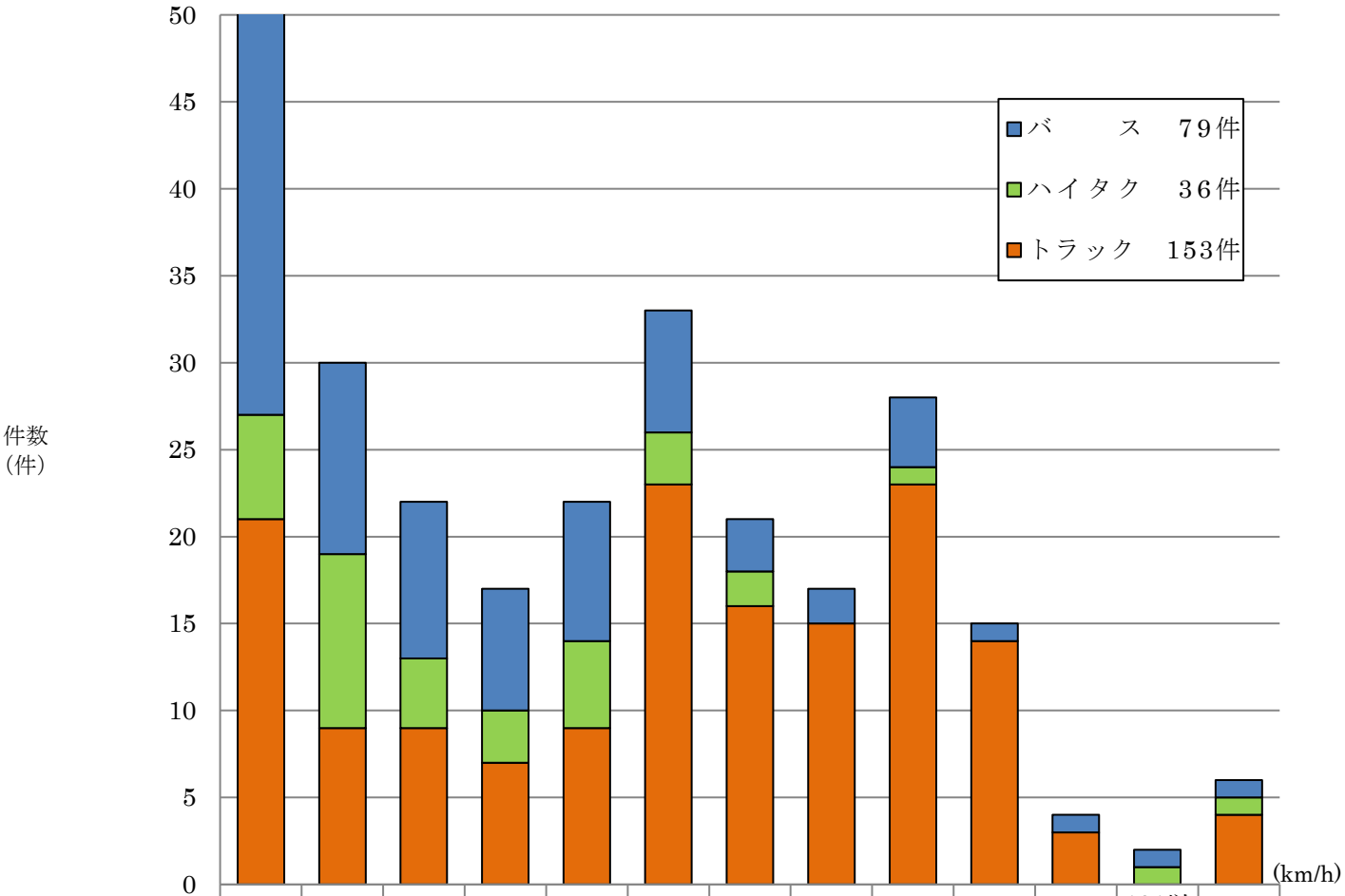
〔図23〕　時刻別事故発生状況



８．危険認知速度別事故発生状況

危険認知速度別の発生状況では〔図24〕のとおりです。業態別にみると、バスについては停車中の事故が多く、ハイタクについては10km/h以下の速度域で事故が多く、トラックについては41～50km/h、71～80km/hの速度域で多く事故が発生しています。

〔図24〕 危険認知速度別事故発生状況



	停車中	1～10	11～20	21～30	31～40	41～50	51～60	61～70	71～80	81～90	91～100	101以上	不明
バ　　ス　79件	24	11	9	7	8	7	3	2	4	1	1	1	1
ハイタク　36件	6	10	4	3	5	3	2	0	1	0	0	1	1
トラック　153件	21	9	9	7	9	23	16	15	23	14	3	0	4

９．高速道路等における重大事故発生状況

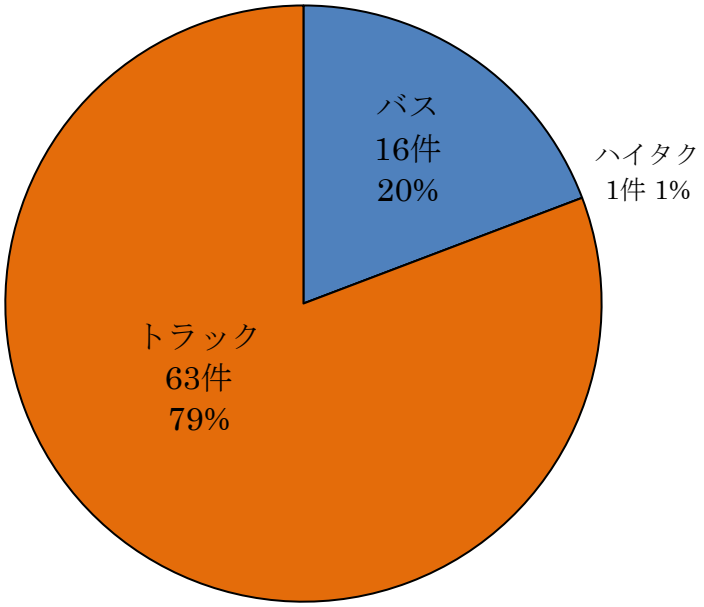
① 業態別重大事故発生状況

高速自動車国道及び自動車専用道路における重大事故発生状況は〔表8〕のとおりであり、全事故件数268件中80件と全体の30%を占めています。業態別事故発生の割合は〔図25〕のとおりで、バスは20%、ハイタクは1%、トラックは79%となっています。

〔表8〕業態別重大事故発生状況

	バス		ハイタク		トラック		計		合計
	高速	専用	高速	専用	高速	専用	高速	専用	
重大事故件数	14	2	1	0	54	9	69	11	80
死 者 数	0	0	0	0	13	2	13	2	15
重傷者数	0	0	0	0	10	2	10	2	12
軽傷者数	15	0	0	0	31	3	46	3	49

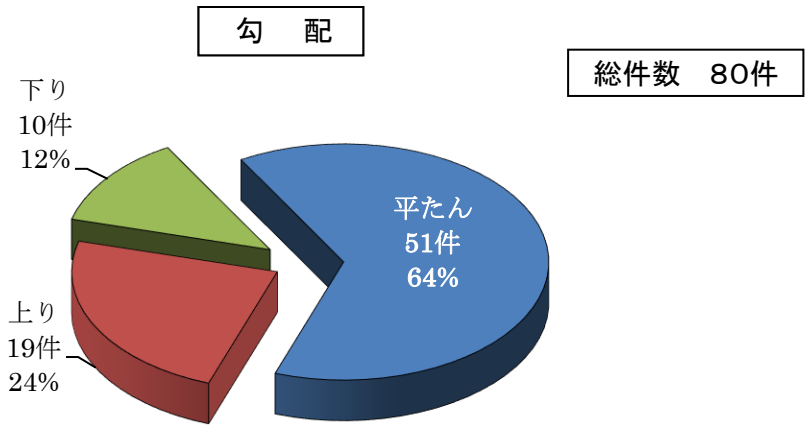
〔図25〕 業態別重大事故発生状況



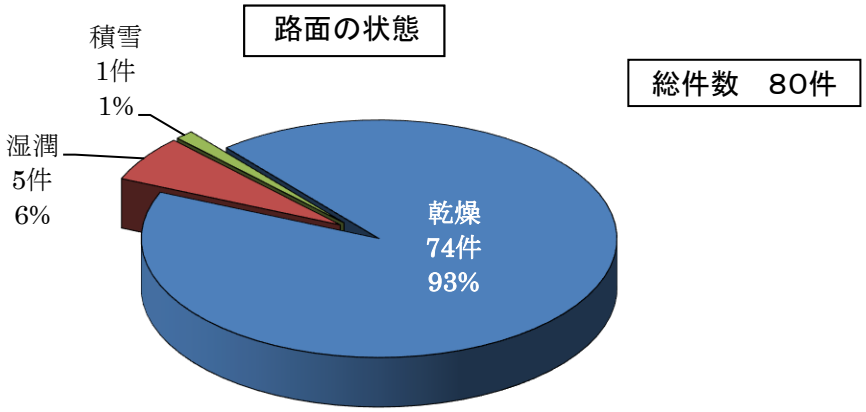
② 事故発生地点の道路状況

事故発生地点の道路状況については〔図26-1〕〔図26-2〕〔図26-3〕のとおりです。

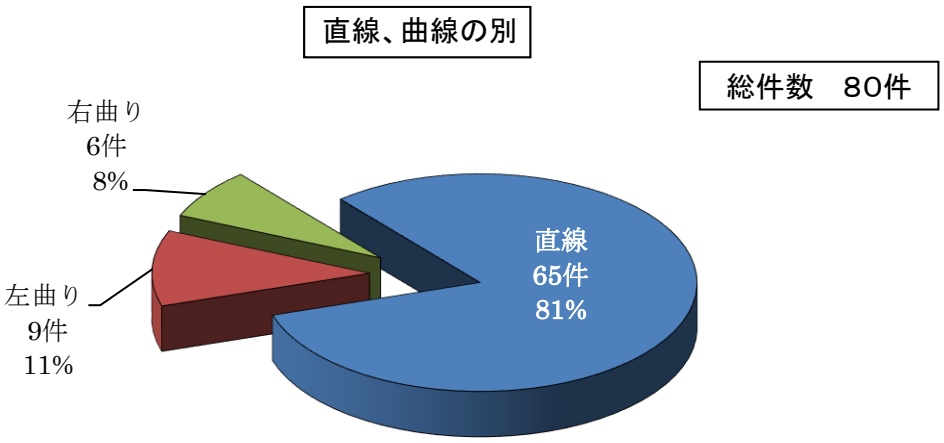
〔図26-1〕



〔図26-2〕



〔図26-3〕



Ⅲ　管内事業用自動車の重大事故統計

1. 業態別・県別・年次別重大事故発生状況

業態 / 年 / 県別	バス					ハイタク					トラック					合計				
	30	元	2	3	4	30	元	2	3	4	30	元	2	3	4	30	元	2	3	4
福　岡	76	59	22	24	24	25	22	15	18	17	59	77	60	68	49	160	158	97	110	90
佐　賀	7	9	10	5	2		2				13	9	20	22	14	20	20	30	27	16
長　崎	21	28	15	17	16	19	16	7	10	12	14	17	9	11	16	54	61	31	38	44
熊　本	8	5	3	8	7	3	6	1		1	25	28	24	20	17	36	39	28	28	25
大　分	17	13	13	7	21	4	1	8	1	1	18	20	14	12	16	39	34	35	20	38
宮　崎	5	8	5	4	2	3	5	3	3	2	5	14	9	11	12	13	27	17	18	16
鹿児島	10	15	6	5	7	5	4	2	4	3	27	23	25	28	29	42	42	33	37	39
計	144	137	74	70	79	59	56	36	36	36	161	188	161	172	153	364	381	271	278	268

2. 業態別・事故の種類別・年次別重大事故発生状況

業態 / 年 / 種類	バス					ハイタク					トラック					合計				
	30	元	2	3	4	30	元	2	3	4	30	元	2	3	4	30	元	2	3	4
転　覆						1	1	1			15	17	12	15	15	16	18	13	15	15
転　落						1		1		1	4	9	4	9	8	5	9	5	9	9
路外逸脱																				
火　災	2	3				2			1	1	13	16	14	16	21	17	19	14	17	22
踏　切													1					1		
衝　突	12	12	8	7	10	21	17	11	12	10	58	66	55	50	53	91	95	74	69	73
車　内	25	34	17	13	13	1	3	3	5	3						26	37	20	18	16
死　傷	9	6	8	8	5	25	28	17	15	15	34	36	26	27	23	68	70	51	50	43
健康起因	11	13	6	1	5	6	5	1	1	1	6	9	3	7	5	23	27	10	9	11
危険物等											1		1			1		1		
車両故障	85	69	35	41	46			1		1	10	18	19	26	20	95	87	55	67	67
その他						2	2	1	2	4	20	17	26	22	8	22	19	27	24	12
計	144	137	74	70	79	59	56	36	36	36	161	188	161	172	153	364	381	271	278	268

3. 県別・業態別重大事故発生状況

業態		バス								ハイタク							
区分＼県別		福岡	佐賀	長崎	熊本	大分	宮崎	鹿児島	計	福岡	佐賀	長崎	熊本	大分	宮崎	鹿児島	計
件数		24	2	16	7	21	2	7	79	17	0	12	1	1	2	3	36
死者数		0	0	0	0	1	0	0	1	2	0	1	0	0	1	2	6
負傷者		22	0	8	6	3	1	6	46	14	0	10	2	1	2	1	30
事故100件当り	死者	0.0	0.0	0.0	0.0	4.8	0.0	0.0	1.3	11.8	0.0	8.3	0.0	0.0	50.0	66.7	16.7
	傷者	92	0	50	86	14	50	86	58	82	0.0	83	200.0	100.0	100	33	83
自動車1,000台当たり	件数	5.4	2.7	8.0	4.6	24.6	2.7	3.2	6.3	1.6	0.0	4.4	0.3	0.5	1.1	0.9	1.5
	死者	0.0	0.0	0.0	0.0	1.2	0.0	0.0	0.1	0.2	0.0	0.4	0.0	0.0	0.6	0.6	0.2
	傷者	4.9	0.0	4.0	3.9	3.5	1.3	2.7	3.7	1.3	0.0	3.7	0.6	0.5	1.1	0.3	1.2
対象自動車		4471	736	1995	1526	853	747	2192	12520	10574	1059	2727	3275	2079	1758	3342	24814

業態		トラック								合計（バス・ハイタク・トラック）							
区分＼県別		福岡	佐賀	長崎	熊本	大分	宮崎	鹿児島	計	福岡	佐賀	長崎	熊本	大分	宮崎	鹿児島	合計
件数		49	14	16	17	16	12	29	153	90	16	44	25	38	16	39	268
死者数		13	3	0	8	3	5	6	38	15	3	1	8	4	6	8	45
負傷者		31	6	9	12	12	11	20	101	67	6	27	20	16	14	27	177
事故100件当り	死者	26.5	21.4	0.0	47.1	18.8	41.7	20.7	24.8	16.7	18.8	2.3	32.0	10.5	37.5	20.5	16.8
	傷者	63	43	56	71	75	92	69	66	74	38	61	80	42	88	69	66
自動車1,000台当たり	件数	0.9	1.4	1.7	1.0	1.5	1.1	1.7	1.2	1.3	1.3	3.2	1.2	2.8	1.2	1.7	1.6
	死者	0.2	0.3	0.0	0.5	0.3	0.4	0.4	0.3	0.2	0.2	0.1	0.4	0.3	0.4	0.4	0.3
	傷者	0.5	0.6	1.0	0.7	1.1	1.0	1.2	0.8	0.9	0.5	1.9	0.9	1.2	1.0	1.2	1.0
対象自動車		56733	10301	9227	16280	10477	11286	17030	131334	71778	12096	13949	21081	13409	13791	22564	168668

（注） 軽自動車を除く。なお、トラックには特種用途車を含み、被けん引車は除く。

4.県別・業態別・種類別重大事故発生状況（令和4年）

支局	業態＼事故種類	合計			転覆			転落			路外逸脱			火災			踏切		
		件数	死者	傷者	件数	死者	傷者	件数	死者	傷者	件数	死者	傷者	件数	死者	傷者	件数	死者	傷者
福岡	バス	24		22															
	ハイタク	17	2	14				1						1					
	トラック	49	13	31	5		3	1		1				7					
	計	90	15	67	5		3	2		1				8					
佐賀	バス	2																	
	ハイタク																		
	トラック	14	3	6	1			1						1					
	計	16	3	6	1			1						1					
長崎	バス	16		8															
	ハイタク	12	1	10															
	トラック	16		9	2		1							3					
	計	44	1	27	2		1							3					
熊本	バス	7		6															
	ハイタク	1		2															
	トラック	17	8	12	1		1	1						2					
	計	25	8	20	1		1	1						2					
大分	バス	21	1	3															
	ハイタク	1		1															
	トラック	16	3	12	2		3	2		1				2					
	計	38	4	16	2		3	2		1				2					
宮崎	バス	2		1															
	ハイタク	2	1	2															
	トラック	12	5	11				1		1				1					
	計	16	6	14				1		1				1					
鹿児島	バス	7		6															
	ハイタク	3	2	1															
	トラック	29	6	20	4		1	2						5					
	計	39	8	27	4		1	2						5					
合計	バス	79	1	46															
	ハイタク	36	6	30				1						1					
	トラック	153	38	101	15		9	8		3				21					
	計	268	45	177	15		9	9		3				22					

支局	事故種類／業態	衝突			車内			死傷			健康起因			危険物等			車両故障		
		件数	死者	傷者	件数	死者	傷者	件数	死者	傷者	件数	死者	傷者	件数	死者	傷者	件数	死者	傷者
福岡	バス	3		16	3		3	2		2	1		1				15		
	ハイタク	2		2	1		1	7	1	7	1	1							
	トラック	13	7	15				9	6	9							9		
	計	18	7	33	4		4	18	7	18	2	1	1				24		
佐賀	バス																2		
	ハイタク																		
	トラック	3	1	3				4	1	3	1	1					2		
	計	3	1	3				4	1	3	1	1					4		
長崎	バス	1			5		6	1		1	2		1				7		
	ハイタク	4		4	1		1	6	1	5							1		
	トラック	6		6				2		2							3		
	計	11		10	6		7	9	1	8	2		1				11		
熊本	バス	3		4	1		1	1		1							2		
	ハイタク	1		2															
	トラック	7	5	9				4	2	2	1	1					1		
	計	11	5	15	1		1	5	2	3	1	1					3		
大分	バス	1		1	2		2				2	1					16		
	ハイタク				1		1												
	トラック	6	3	7				1		1							3		
	計	7	3	8	3		3	1		1	2	1					19		
宮崎	バス	1		1													1		
	ハイタク	1		2				1	1										
	トラック	7	3	9				2	2	1							1		
	計	9	3	12				3	3	1							2		
鹿児島	バス	1		1	2		4	1		1							3		
	ハイタク	2	1	1				1	1										
	トラック	11	5	14				1		1	3	1	1				1		
	計	14	6	16	2		4	3	1	2	3	1	1				4		
合計	バス	10		23	13		16	5		5	5	1	2				46		
	ハイタク	10	1	11	3		3	15	4	12	1	1					1		
	トラック	53	24	63				23	11	19	5	3	1				20		
	計	73	25	97	16		19	43	15	36	11	5	3				67		

支局	業態＼事故種類	飲酒等			救護違反			交通障害			その他		
		件数	死者	傷者	件数	死者	傷者	件数	死者	傷者	件数	死者	傷者
福　岡	バ　ス												
	ハイタク	1		1	3		3						
	トラック	1			2		2				2		1
	計	2		1	5		5				2		1
佐　賀	バ　ス												
	ハイタク												
	トラック	1											
	計	1											
長　崎	バ　ス												
	ハイタク												
	トラック												
	計												
熊　本	バ　ス												
	ハイタク												
	トラック												
	計												
大　分	バ　ス												
	ハイタク												
	トラック												
	計												
宮　崎	バ　ス												
	ハイタク												
	トラック												
	計												
鹿児島	バ　ス												
	ハイタク												
	トラック							2		3			
	計							2		3			
合　計	バ　ス												
	ハイタク	1		1	3		3						
	トラック	2			2		2	2		3	2		1
	計	3		1	5		5	2		3	2		1

5. その他

〔1〕 年別・業態別事業用自動車保有台数の推移 （九州）

各年12月末現在

業態＼年別	28年	29年	30年	元年	2年	3年	4年
バス	13,925	14,049	14,155	13,864	13,234	13,234	12,520
ハイタク	28,836	28,225	27,401	26,600	25,911	25,911	24,814
トラック	125,222	127,382	129,294	129,440	131,057	131,057	131,334
合　計	167,983	169,656	170,850	169,904	170,202	170,202	168,668

〔2〕 県別・業態別事業用自動車保有台数

令和4年12月末現在

業態＼県別	福岡	佐賀	長崎	熊本	大分	宮崎	鹿児島	合　計
バス	4,471	736	1,995	1,526	853	747	2,192	12,520
ハイタク	10,574	1,059	2,727	3,275	2,079	1,758	3,342	24,814
トラック	56,733	10,301	9,227	16,280	10,477	11,286	17,030	131,334
合　計	71,778	12,096	13,949	21,081	13,409	13,791	22,564	168,668

（注）軽自動車を除く。なお、トラックには特種用途車を含み、被けん引車は除く。